

昭和四十九年九月招集

第三回館山市議會定例会會議錄第二号

館山市議會

目次

日時	一
場所	一
出席議員	一
欠席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	一
議事日程	一
開議	二
行政一般通告質問	二
栗原 一雄君の質問	二
流山源次郎君の質問	九
渡辺軍治郎君の質問	一七
辻田 実君の質問	二六
安西 益男君の質問	四四
散会	四九
本日の会議に付した事件	四九

一、昭和四十九年九月十九日（木曜日）午前十時

二、館山市役所議場

一、出席議員 二十八名

一 番	吉田 勇治郎	二 番	林 豊
三 番	流山 源次郎	四 番	鈴木 稔
五 番	近藤 好雄	六 番	栗原 一雄
七 番	渡辺 昭夫	八 番	石井 武敏
九 番	辻田 実	〇 番	渡辺 軍治郎
一 番	山本 昇	一 番	藤田 益治
二 番	五十嵐 昇	二 番	伊賀 多朗
三 番	和田 一郎	三 番	井井 謹爾
四 番	安西 益男	四 番	島野 茂樹郎
五 番	塚喜 三	五 番	鈴木 市蔵
六 番	田村 源治郎	六 番	菊井 敏博
七 番	西村 真次	七 番	安沢 徳順
八 番	飯田 義男	八 番	望月 照正
九 番	田中 禄郎	九 番	遠山 ヨネ子

一、欠席議員 一名

二 九 番 秋山 六三郎

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第二号）

昭和四十九年九月十九日午前十時開議

日程第一 行政一般通告質問

議 午前十時五分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十八名、これより第三回市議会定例会第二日の会議を開会いたします。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

行政一般通告質問

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、これより通告による行政一般質問を行ないます。

締め切り日の九月十五日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手もとに配付のとおりであります。これより順次質問を行ないます。

なお、この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を二十分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて三十分以内といたします。

これより順次発言を願います。六番議員栗原一雄君。

（六番議員栗原一雄君登壇）

○六番（栗原一雄君） 私は、この九月定例会に二点について御質問いたします。

第一点は、大震災発生時における緊急対策の考え方についてでございます。

一つ、学童並びに住民の安全をはかるため必要な事前対策。

一つ、危険地域の実態調査及び対策指導。

一つ、避難通路及び公共広場の整備でございます。

去る九月一日は防災の日でございましたが、それに先立ち八月二十九日行政管理庁は、建設省をはじめ関係省庁と、九都府県等に対して行なわれました勧告によれば、今回は特に地震対策を対象としたものでございますので、これは異例のことだとされております。

本年は、関東大震災から五十一年目を迎えたのでございますが昔のことわざに「災害は忘れた頃にやってくる」と言われております。今回特に、科学的根拠による国土地理院の観測データによれば、房総半島中央部にやや異常な地殻の隆起現象がみられ、近い将来大地震が起こるであろうと発表され、現在の観測地点の測定装標をさらに三倍に整備する方針を八月末に決定いたしました。

当市における建築家屋数は四万六千二百五十五棟とされておりますが、その九六・九％にあたる四万四千八百四十八棟が木造建築であります。市内の学校については全体の六七％が木造であり、四〇％は改築等が必要であろうと考えられます。

もちろん、市独自のみんなの地震対策、災害に備えての小冊子等を配布いたしておられることは周知のことでございますが、五万余人の市民の安全対策のためにもきわめて重要な問題でございまして、心の準備としてまた実務的な面についてお尋ね申し上げます。

第二点、首都圏における観光都市としての今後の課題と必要な整備促進についてでございます。

一つ、観光審議会において審議されました海岸環境整備事業の経過。

一つ、海岸施設の整備促進についてでございます。

本年度の観光夏季シーズンも終わりましたので、将来の館山市の方向づけ、首都圏における位置づけはどのようになされるのか。お尋ねいたします。

この九月の定例会に、特に館山市長改選期にあたりますので、私は本間市長に対しておそろく最後の定例会における通告による質問になろうかと存じます。

昭和三十七年十二月十一日市長就任にあたり、当時の広報に掲載されました市長就任あいさつに、豊かで美しい十万都市建設を公約とし、意見やアイデアをお寄せください。そして市民の考えていることが一つでも多く市政の上に実現することを期待し、明かるく、たくましく、希望ある郷土の発展のため、市民一丸となつて努力するとあります。

本年までの十二年間、館山市における最高責任者として、また為政者として非常に高度な識見をお持ちになられ、卓越した手腕は全国に先がけた地方自治推進の大きな原動力となり、全国にアイデア市長としてその名を知られ、市民サービスに幾多の創意工夫を行政の中に取り入れ、市勢発展に努力され、現在の情報化時代における価値観の多様化の中で、今日まで一貫して所信貫徹に全力を傾注し、市民サービスを優先させ、市政の基本となる事務機構の合理化、能率化を進め、なお教育放送センターの設置に伴う教育の機会均等化による教育振興は、さらに内部機能の充実により教育水準の向上に役立つものであらうと信じて疑うもので

はございません。

市政の究極するところは、市民福祉の増進及び健康で快適な生活のできる町づくりであり、日頃市長の申されております主権在民の民主政治の追究にあまりあるものがあるうと思えます。

自主財源の少ない当市においては、まことに積極的な行政を施行され、今日まで現実を福祉行政の理想に近づけた努力は、本間市長の面目躍如たるものがあるうと思えます。

終りにあたり、ここに改めて敬意を表するものでございます。以上。

（市長本間 譲君登壇）

○市長（本間 譲君） 本議会における通告質問者五名の方に対してまして御回答申し上げたいと存じますが、私では不十分な点多々あるうかと存じますが、これにつきまして、くわしいことにつきましては助役、教育長、各課長をして補足説明をいたさせていただきます。この点あらかじめ御了承おきをいたしたいと存じます。

ただいま、栗原議員さんから私の今日までのことにつきましていろいろおほめのことをちようだいいたしましたわけでございますが、別に能書きばかりよくて、中身のないような市政をやったように思っておるんですが、今となつては間に合いませんけれども、私としてはせいっぱいやつたと、そういう気持ちでいっぱいでございますが、栗原議員さんにつつしんでお礼を申し上げたいと存じます。

栗原議員さんの御質問のことはきわめて重要なことでございますが、はじめは大震災時の対策ということでございますが、これは栗原議員さんは、ちょっと私は年輩のことがわかりませんけれ

ども、御経験があるいはなさったかと思いますが、当時私は二十四、五歳でございましたので、現実にあの震災にぶつかってひどい目をくった経験があるわけでございます。全く地震というものはおそろしいもので、だれがどうしようといってもどうにもならないのが当時の実情であつたわけでございますが、しかしながら市としてはそういう方ではもちろんいけないわけでございますまして、震災のこわさ、おそろしさ、またこれに対する十分なる対策を示していかなければならぬと思つておるわけでございますが、これに対しては従来地震に対する科学者を招聘していろいろ市民に地震に対することのお話しを聞いていただいたり、いろいろのことをやつてまいつたわけでございますが、それから地震を想定して、早く言えば防災訓練といひますか、地震訓練これも二回ほど実施して、市民に地震というものに対するおそろしさ、またこれに対する対策を認識をしてもらった。こういうようなことでございました。

それから、児童、住民の安全ということでございますが、児童に対しましては、いろいろ学校のほうに要綱を流して、また学校当局におかれましては十分理解されまして、それらの対策を講じてあるわけでございまして、この点は学校当局を信用するし、市とタイアップしてやらなくちゃならないことでございますので、緊密な連絡のもとに一そう児童の安全をはかつてまいりたいと思つておりますが、住民の方々としては、これは市の対策はいろいろ演習等によつておりますが、まずご自分のことですから、ひとたび大きな地震がよつてきますと、そういうのはわるいんですけれども、人どころではないですね。自分がどうしようか、そうい

うようなわけですから、住民一人二人が常に市の広報や、そういう演習等について十分なる研究をして、たとえば、地震がよつたら、家の者はどこそこにみんな集まれとか、石垣のところはあぶないとか、まずガスをとめるとか、いろいろふだんからの住民自体の心がけも必要じゃないかと思いますが、いろいろのこともございまして、けがが人、死亡者というものは出ちゃいけませんけれども、これは出ないわけにはいかないですね。そういう場合に一番困ることは、やはりけがをしたときの薬品やなんかの問題がどこでも備えてあるわけじゃない。備えてもらいたいけれども、薬もいつまでも置かれてきかなくなる憂いもありますので、市では薬屋さんという場合における特約をして対処をしておるわけでございますが、これは学校、各種団体それぞれの立場でこれを検討していかなくちゃならぬと思うんですが、それにはまず市が広報やなんかによつていろいろの市の考え方を徹底することがまず必要だろうと思いますが、今、避難場所が三十六カ所ばかり設けてあるわけでございますが、それらについても知らない人もおるんじゃないかと思いますが、そういうこともよく知つてもらふように一そうの指導をしてまいりたいと考えておる次第でございます。

それから、危険地域の実態調査と対策、指導ということでございますが、危険区域につきましてはパトロールをしていろいろ住民の考え方を聞いて、実際における危険箇所に対しては、市でできるものは市でやるし、大体大きなものは国、県にその旨を傳達して、そうして国、県において対処を願う。こういうことになつておりますが、市内では数カ所、大きな問題は那古の観音さまの

二外 加
ところですか、それからまだたくさんありますけれども、そういうことについては十分調査をしてこれらに被害を及ぼさないように対策を進めておる次第でございます。

次は、避難通路と公共広場の整備であります。公共広場の整備というのは、私が申し上げたのは三十六カ所という大きな面ですが、これはやはり指導しておりますが、町内会とか区を単位として皆さんと相談してやるようにこちらからも指導もしておりますし、また一そう強化をしてみたいと存じます。

それから、避難通路につきましても、なるべく市のほうでこれを指定して安全に避難できるようにいたしたいと思いますが、災害のときにも館山はそうでもないでしょうけれども、東京あたりは、あの当時の様子を見ますと、みんな車で自分の荷物をいっぱい積んでいく。そこに火がつく。それで火事になるという面もあったと思うんですが、館山はそういうことはないと思いますけれども、まず自動車の動きがそういうようなことになって、それがために自動車火災を起したり、いろいろ問題が起ると思いますけれども、それらについてもよく指導をしてそういうことのないようにやってまいりたいと考えておるわけでございます。それから、観光の今後の課題ということで、そのうちの海岸整備の経過でございますが、海岸は御案内のように相当砂も減るし汚染もされておる。こういう情勢にあることは一部あるんですがこれに対しては運輸省ですかの心配で、現在県と地元の方々との相談をしてこれが実施できるようにいたしたい。

つまり、昔のようないい砂がないわけですから、いい砂と入れかえをするというようなことが主たるものと思いますが、五十年

から五年間ぐらいの間にこれを実施しようとして、地元と県と相談してこれに対処しておるわけでございます。

それから、海岸施設の整備促進、このことは海岸をきれいにする、海岸のいわば公園化ということにもつながると思いますけれども、来年は歩道のところにマキの木を二〇〇メートル植えてなるべく緑化しようと、また来年も引き続き植栽しようと、そうしてまたヤシをよく育てて美しい緑の海岸としていこうと、こういうふうに考えておるわけでございます。

それから、栗原さんの前にもお話しましたが、夏の施設についての館山海岸における休憩所が非常に古くなりまして、あのままでは危険であるし、観光客に対しても気分がわるいわけで、今年はあるを建てかえる予算もちょうだいしてあるわけでございますが、あれを借りるについての、なかなか県のほうでもいろんなことを言って、借り入れ許可が遅れまして、最近許可がきたわけでございますので、これは早速着手して来年にはきれいな脱衣所、休憩所にしたい。こういうふうに考えておる次第でございますが、

そのほか、海水汚染についてはいろいろ大腸菌の検減やなんかについて毎回申し上げておりますように、富士見橋あるいはどんな川あるいは楠見川等に施設をして、そうして大腸菌のいきれいな水を流す。こういうことでやっておりますが、今後必要に応じてやはりそういう施設をしなければならぬと存じますが、たいへん説明が足らなかったと思いますが、あとのことは課長等から説明をさせますので、再質問でけっこうでございますが、よろしく願いたいと思います。

〇六番（栗原一雄君） 去る九月四日市民センターにおきまして、

市内の小、中、幼稚園、保育園でございましょうか、防災会議が開かれたわけでございますが、なにぶんにも館山には先ほどお話し申し上げたとおり非常に老朽校舎が多いわけでございます。

そういった面で、たとえば旧村ということばが適当かどうか、わかりやすく申し上げますと、旧村の場合には山をうしろにかかえておりますので、そういう山くずれの危険性、崩壊する危険性と申し上げましょうか、非常に大きいわけでございます。

館山市内に、市として何カ所ぐらいあるか。実態調査されたかどうか、そのへんをお尋ね申し上げたいと思います。

〇交通防犯課長（山口 一君） お答えいたします。

急傾斜地の崩壊危険の防止に関する法律に基づきますいわゆる急傾斜地といたしまして、現在主管課のほうで指定申請を出しておりますのは五カ所ほどございます。小学校の裏山関係では三件、あと那古山、野屏の山、合計五カ所でございます。

なお、そのほかにはがけ地の近接危険住宅関係といたしまして、危険箇所といたしまして十八カ所を実態調査してございます。

〇六番（栗原一雄君） 先ほど、市長さんがお話しされておられましたが、昔、大八車に避難の場合に荷物を積みますと、それに火がついたというお話しでは、まず館山にはないだろうというお話しでございますが、きわめて現在は火災の発生しやすいガソリンを積んだ車がひしめております。当時の館山とたいへん状況が変化いたしましたしておりまして、なにぶんにも住宅が密集いたしました。

そういった面で、市としてはそういう昔の話でございしますが、

たいへんそれが避難路をふさいだという市長さんのお答えだろうと思います。そういった面で私は、かえって現在のほうがいわれる避難通路をふさぐような状態になるんではなからうか。もちろんそういう問題が起きますと、パニック状態と申し上げましょうか、そういった問題も起きてくるわけでございます。

先般、私、防災会議を開いておりましたが、連絡方法としては先ほどの市長さん、区や町内にそういった連絡をおつくりになれるようなお話しでございます。また、防災会議におきましてそういうお話しでございます。消防通信等を通じて連絡いたします。こういうことでございますが、あの消防無線でございますが、現地で一般に準備されております消防無線機については電気で作るといいうわけではございません。当然、大きな地震が起きますと、停電、人為的にもメーンスイッチを切らなければならぬかと思ひます。そういったときの連絡あるいはまた地震が起きまして道路、最近では各お家の周辺にブロックを積んでおりますので、狭い道路等はおそらく前のほうに進むことは不可能に近い状態になるかと思ひますが、そういう場合の連絡方法はどのようなお考えになられておられるか。お尋ね申し上げます。

〇交通防犯課長（山口 一君） 災害発生時におきます情報の交換が、もっとも大切なことかと考えております。現在、基本的には防災計画によって定められておりますが、一応各住民に對しましての情報提供につきましては、消防団の各幹部の方に情報連絡員をお願いいたしております。防災機関より消防団の幹部の方に情報を流しまして、各住民の方にお伝えしていただく。このような手配になっております。

ただいまの御質問のように、有線の途絶時の場合のことを考えまして、一応消防無線を利用させていただくというふうなことになると思いますが、今お話しのように、電気の途絶した場合は非常にその問題が困難になってきようかと考えております。

現在、将来計画といしまして、直接各町内の方に無線によって連絡するシステムを考えていく必要があるかと考えております。現在、検討中でございますので、具体的にはまたこれから検討したいと思います。

○六番（栗原一雄君） 最近、行政の需要の増加により何かと役所主義と申しましょうか、たいへん複雑化いたしております。そういった時点におきます。たとえば地震が起きまして、どこどこ連絡がつかない。これは地震でございますから局部的な問題ではない。相当広範囲の問題でございますので、そういう場合に少なくとも市民の不安感、そういったものを防止するために、あるいはまた一日や二日連絡が取れなくても市民は安心できるんだというふうな、いわゆる備蓄倉庫と申し上げましょうか。そういったもののお考えは現在お持ちになられているかどうか。そのへんをお聞きたいと思えます。

○交通防犯課長（山口 一君） 災害時に対処いたします資器材の備蓄でございますが、現在のところ市役所内に多少の資器材は備蓄してございます。ただ、そのような大災害時の場合には、その資器材を取り出すことに非常に困難があらうかと思いますが、現在これも将来計画でございますが、郊外にどんな災害にもまいじょうぶのような備蓄庫を整備いたしまして、そこにある程度の資器材を備蓄して一応有事の際に備えよう。こういうことを現在進

めておる段階でございます。

○六番（栗原一雄君） 十勝沖地震におけるその後の調査結果によりますと、新聞等によりますと、使用石油ストーブの一・三%から火災が発生した。このように言われております。

館山の場合は、やはり非常に気候温暖と申し上げましょうか、セントラルヒーティングを使う場合が比較的まだまだ少ないと思えます。そういった面で、石油ストーブの利用度が非常に高まっておりますので、当然火災発生ということも考えられるわけでございます。そういった面から考えますと、先ほど三十六カ所の避難場所がある。このようなお答えもいただいているわけですが、実際、その避難路を円滑に目的の場所まで行くのには非常に危険が伴うと思えます。まずおそらく無理だろう。このように考えるわけでございます。

そういった面から、どこの町内でも多少のあき地があるうかと思えますが、民間の場合につきましては、どちらのあき地におきまして、いわゆる鉄条網と申し上げましょうか、そういったものが張りめぐらされているわけでございます。

夜分でございますと、どうしても人間の心理として広い場所に逃げようということを考えた場合に、そういったあき地の利用、その所有者につきまして、こういう問題が発生いたしておりますので、市としては極力協力していただくというようお願いに、過去いたしておりますかどうか。そのへんをお尋ねしたいと思えます。

○交通防犯課長（山口 一君） 御指摘のとおり、現在三十六カ所の避難場所が一応防災計画において指定されております。しかし

これはいわゆる市内におきます広域避難場所でございますので、そのような大災害の場合には一時的に避難をする。いわゆる避難地が身近かのところにほしいわけでございます。今、お話しのように、各町内等にそのような広場もございますので、今後そのような広場の開放と申しましょうか、一応有事の際に使用させていただきますように地主の方々とも今後協議をしてみたいと考えております。

なお、現在防災主管課のほうで自主組織の結成の促進を進めております。これは先ほど市長答弁にもございましたように、大災害発生の場合には、防災関係機関は総力をあげてこの危険防止にあたるわけでございますが、それと同時に住民の方々が自主的な防災活動も必要じゃなからうかということで、自主防災組織の結成をお願いしていただくということで現在その対策を進めておるわけでございますが、その中でぜひこのような各町内会単位に一時的な避難地を市と、それから住民の方と一緒にきめていく。このような体制づくりをしていきたい。このように考えております。

○六番(栗原一雄君) 観光の問題につきまして先ほど御答弁ちょうだいしたわけでございますが、本年度の予算の中に五百万でございますいましたでしょうか、休憩所の建設工事というものがあらかじめ予算化されておるわけでございます。私はその問題につきまして過去質問いたしておりますが、本年度はできないということとでさらに先ほどの市長のお答えをいただきました。一応了解いたしました。が、ぜひともこれは館山のいわゆる観光財源と申ししましょうか、これはやはり海岸だけでございます。

自然保護という観点から申し上げますと、なかなかむずかしい

時代でございます。ぜひとも来年度は休憩所の建設に積極的に取り組んでいただきたい。このように考えるわけでございます。

それから、緑化の問題でございますが、本年度はマキを植え、さらにヤシを八本増植しておりますが、これからさらにそれを延長する考えをお持ちになられるかどうか。ひとつお尋ね申し上げます。

○商工観光課長(鈴木 力君) お答え申し上げます。

四十九年度におきまして、北条海岸の監視センターを起点といまして、北に向いまして三軒町の休憩所がございまして、その間約二〇〇メートルの間、マサキの木を三百本植栽したわけでございますが、これにつきましては、砂防と同時に緑化を推進する意味で植栽したわけでございますが、先ほど市長のほうから御答弁がございましたとおり、引き続きまして、できれば来年度も継続して植栽事業をやってまいりたい。このように考えております。

○六番(栗原一雄君) 私は、過去観光問題、私は商売いたしております関係か、観光問題が非常に多いわけでございますが、やはり館山市の財政の立て直しとでも申し上げましょうか、そういう意味からもきわめて必要な問題だろうと思っております。

昨年でございましたでしょうか、汐入川のいわゆるヘドロの撤去を行なったわけでございますが、撤去する前には魚の魚形と申し上げましょうか、全然見られなかったのでございますが、最近はいへんな、房州弁で申し上げますと、ナブラと申し上げます。ううか、たいへんな量でございます。

やはり、観光も同じように受け入れ体制を整えて、安心して生

活できるということでございますと、おそらくお客さまも魚の群と同じようにきていただけるものと思います。

最近、外房地区がたいへんにぎわっております。どうして館山のよな条件のよいところがお客さまが減少するのか、このように考えますときに、私ども、もちろん海水浴にまいりますときに、北条海岸では泳がないわけでございます。地元の人が泳ぎませんので、これはもちろんお客さまにきてくださいという方が無理でございます。

そういう意味では、この養浜事業はきわめて重要な館山市の住民の将来の生活圏から申し上げましても重要な課題だろうと思えますので、どうか積極的に観光対策につきまして、館山の発展のためにもまた住民の将来の生活の安定のためにも、ひとつお力添えをいただきたい。かように考えまして、本日の質問を終らせていただきます。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、六番議員君の質問を終わります。

次、三番議員流山源次郎君。

（三番議員流山源次郎君登壇）

○三番（流山源次郎君） 私は、館山市としては市民サービスについてどのように考えるかということの質問でございますが、御承知のとおり広くアイデアを取り入れました本間市政というものは全国に広く知れわたっておりまして、私ども市民といたしましては、この行政は高く評価するものでございます。

しかしながら、私ども市と直接関係のあります者としていたしましては、地域の住民の苦情なり、あらゆるものを毎日毎日市の方との連絡を取っておる関係上、この誇り等が、行政が末端にいった

場合に、ある手違いによってこれが直接の一〇〇％を市民に渡らずに、そこに何かの苦情が残るという点につきまして、今後のこういうせっかくのいい行政指導が「仏つくって魂入れず」というような結果になることを憂えまして、この問題につきまして市当局と真剣に討議をしてみたいという意味で、私といたしましては市民サービスについての考えはどのようなものであるかということに、次の四項目について質問する次第でございます。

旧市営住宅に対して、市当局の考えとしては住宅を払い下げるのか、払い下げをしないのか。これは私ども地元の住宅に入っておる方の要望によりまして、市の所管課にまいるまして、この住宅は将来は払い下げてもらえるのかという質問をしたところが、所管課においては、現在館山市としては宅地を求めることは非常に困難であると、そのような状況から照らして、館山市としては絶対にこの市営住宅の払い下げはあり得ないという回答があったのでございますが、それをつぶさに地域の住民にお話して、こういう市の方針であるから、あなた方もそれにそっての今後の生活状態を考えたらいいでしょうということの話を伝えて、地域住民の了解を得たのでございますが、ところがです。最近の市内のある新聞には、今度は絶対に払い下げをしないということである、国なり、県なり他の上部団体とのいろいろ研究をしてみると、何かやわらかい見出しでそれが新聞報道されたのでございますが、そうなりますと、絶対に払い下げをしない。こういうある住宅地の方には報告して、それである一方では、払い下げがあるかもしれないような報道になるといふことになりまして、これは市民として本心がどこにあるかということ非常に迷うのでご

ざいますが、この点につきまして、市のお考えをお聞かせいただきたいと思ひます。

第二点は、館山市の市道の全舗装化に伴い、現在市道に認定されないところの舗装については本年度は見送る考えなのかどうか。これは、市長公約によりますところの市道の全舗装化ということに対して、それに市が全力を尽しているということに対しては非常に敬意を表するのでございますが、いろいろ事情がございまして、合併以前においての各地域割においての道路が合併によって、一方の道が幸いにして市道に認定され、同じ条件でありながら一方の道は市道になれなかった。

現在の情勢では、四メートル以上のものを優先的に市道になるということ、ほとんど不可能に近い、市道に認定されない道路が館山市の各所にありますが、この道路に面して住む住民というべきものは、それならば、市道全舗装化のかけにかれて、今年舗装されないままにぬかるみの道のままに過ごしてしまうのか。この点についてお聞かせいただきたいと思ひます。

第三点といたしましては、公害対策はただかけ声だけで終わらせるのか、市として行政指導のできる限度はどこまでかという質問でございますが、これは今までもたびたび各先鋒議員の方からも市に対して公害対策は非常に真剣に質問され、また討議をされたこととございますが、国なり、県なりの上部団体におきましてはいろいろ公害対策もございしますが、館山市は館山市の独自の公害対策を掲げておるものでございますが、御承知のとおり、館山湾におきましてホタテ貝が漁船の流した油によって被害を受けたという事実が持ち上ったときに、私といたしましても早速市の水産

課または衛生課に對しまして、この公害対策の陳情を続けたのでございますが、その第一回の調査結果については、決してそういうことはなかったと、油の流れるのは、結局保安庁の指導によって万全を期したために、ホタテ貝に被害を与えたものは、その船の流した油ではないというところの回答が私らにあったのでございますが、事實は、当時の漁船の方が流れている現場を見つけてその船の方に対して、何でもいうことをするんだ。われわれは保安庁に訴えるというまでじかに手を握ってのがれる現場をつかまえておるのでございます。

そうして、それに対して向こうのほうでは、保安庁に届けられては困るから、話し合いにするからということとで別れたという事実が判明したのでございまして、再度市の水産課乃至衛生課に對して、この真相を究明するように働きかけたのでございます。

その結果、水産課、衛生課等の連絡を取って、再度会社に対して被害を受けた漁民と話し合いするようにという再度の働きかけをしてくれたことには感謝しております。あれから現在に至るまで、その後は市としても何らわれわれに對する回答もなく、中に入つてあっせんしてくれた会社が一度もわれわれと話し合いをしてないのでございまして、その点について当時公害対策というべきものを掲げただけで、これだけのものができないのか。それならば、なまじっか市なんか公害対策なんか掲げないほうがいいじゃないかという気持ちもありますし、一応行政上についてはそこまで市の執行権がいかないという点もあると思ひますが、その点について御質問いたしたいと思ひます。

最後に、交通相談員制度と實際の市民へのサービスは万全かど

うかということでございますが、私も交通相談員の一員となりまして市民の交通事故のあった場合の相談には、市の交通課の指導を受けまして、いろいろ市民のための相談にのっております。

また、現在におきましては、遠く北は鰯南町から、東は和田町まで、だれが聞いてくるのか知りませんが、私どもに対して交通相談がございまして、早い話が、例をあげますと、古川橋の近くの信号において農高の生徒が信号無視の衝突のために争いがあつた。そういうものまで出かけていって、お互いに裁判にかけずに両方の了解の話し合いがついた。そのときに、地元の方が安房郡にはどこの町に行ってもこういう相談員制度がございません。館山市だけがそういう制度があつて私たちもおかげで助かりました。非常にお世話になりましたということで相当喜ばれておるのでございますが、この交通相談員制度においてもまだまだ実際細かい点、そういった点については市民サービスに欠ける点があるのじゃないかと思ひます。この点の市民サービスは万全かどうか。

(市長本問 議員登壇)

○市長(本問 議員) 流山議員さんの御質問に対しましてお答えをいたしたいと存じますが、第一番に、市民サービスについてという題目でございますが、私は市長就任当時、能力はとほしいものでございますが、まずだれでも喜ばれる、だれでもやれることがなかなかやっていかれないというような現状であつたわけでございまして、まず時間の励行ですね。これはほかの一つ覚えみたく、私は必ず時間にはどこの会合でも時間に行つて率先してやつたんですが、そういうようなことの成果があつたかどうかわか

りませんけれども、市民の集会等におきましては相当時間が励行された。

私があるとき、ゴルフ場の設置の問題のときに、夜七時集合だということであつたから七時に行つたところが、その集会所が閉まつておつた。冬でしたから、こちがあげてそうしてそこに炭なんかあつたから、こちが炭をおこしてあつておつたけれども、だれもみえないですね。どうしたもんだか、近所に行つて聞いてきたらよかつべというわけで聞きにやしたら、七時だけだども、おれのほうは八時か、八時半にならなければいつも始まらないんだよということを聞いて、ちょっと意外に思つたんですが、そういう面についてもある程度改善をされたと思つておりますが、それが市民サービスということではないかと思ひますが、やはり時間を守るということはお互いの利益になるわけで、そういう習慣をつければそのようになるわけで、そういうこともやるし、その次には市民に対するサービス、これは主権在民ですから、市民のための市役所、市民に奉仕をするのが市役所ですから、そういう面でいろいろやっておるんですが、あそこに入り口にも書いてありますように、何か問題があれば電話でもよし、はがきでも、書面でもいいから通知をしてもらいたい。市のほうではそれを受け取つて、それに関係する係員をまずあげて、そうしてその内容を聞いてできるものはなるべくすみやかにやろうというようなことで、また予算がたぐさんかかるとはすぐにはできませんが、とにかくそういう小さい仕事でございすけれども、とにかく市民の気持をそんたくして、これはもう六、七年前から正面にちゃんと掲示してありますし、広報でも出したわけでございます

が、そればかりがサービスとはいえないでしょうけれども、やはり市民の考えていることをなるべく早い機会に実行に移すことは早くやってやるというのが一つの私はサービスではないかと考えて実施をして、皆さま方の御協力を得てあるわけでございますが、そのほかいろいろのことがございますが、卒のは私が就任した初步の時代のことをちょっと片りんを申し上げた次第でございます。

それから、市営住宅の払い下げについてでございますが、市営住宅につきましては相当いたんだところもあるし、それは修繕をじておりますし、これは国や県から補助金をもらってやった仕事であって、市だけでは自由にできない。ある一部の人から払い下げをしてもらいたいという要望があったわけで、私も建設省、県のほうに問い合わせたところが、これは将来のことを考えてみると、地所が少ないから高層住宅やなんかつくるについて考えてみると、それは譲らないようにしていただきたい。こういうようなことで現在あるわけで、私としては長い間使ってもらった人にそれらを払い下げもけっこうじゃないかという個人的にはいたしておりますけれども、公的には建設省、県のほうではそれをやっちゃいけない。こういうようなことで、使っていただけ方々に対する意にそわなくて残念に考えておる次第でございます。

それから、市道でない道路の舗装というところでございますが、先ほど流山さんは四メートル以上のところが舗装されているとおっしゃったようにちょっと聞いたんですが、これは三メートル以上の道路を幅を広げて、そうしてその上を舗装して、私の考えはつまり市にはりっぱな消防車、救急車があるにもかかわらず、道路が狭いために市民ひとしくその恩恵に浴することができないと

いうことは、やはり為政上まずいということで、あれは四年前ですが、一三二キロと思いましたが、やることにしたんですが、土木課長も驚いたわけではないでしょうけれども、そんな大がかりなことをやって金が困るなんていうお話してあって、それは土木課長とすれば当然のことです。

私も、とにかく県会議員にしても、市会議員にしても、市長にいても道路と学校をよくすることをだれでも言うんです。しかしながら実行は困難だというんです。私は思いきって何か圧縮して道路をひとつ重点的にやろうじゃないかというようなことで、英断という、たいへんはばったいことでございますが、そういうことであれを四カ年計画で三メートル以上の市道を舗装にするということになりました。たいへんいろいろ御迷惑をかけてございましたけれども、とにかく四年間で一応あれはでき上ったわけでございますが、そのほかの市道につきましては、つまり幅の狭いところですね。市道たる以上は毎年毎年やっていって、市道でないところも方法を取ってやらなければならぬ。

とにかく、私は観光といっても、何といっても、市民の福祉をはかることにしても道路が基本だと私は考えておって、そういうふうにお願ひしてやっておるわけでございますが、道路のいいことは子供もいいし、年寄りもいいし、農業をやるにしても、商業をやるにしても、観光の上からいっても一番道路が基本になる。こういうことでやって、一応四年計画はかけさまででき上った。あとは次にやはり市道の面をやって、それが終ってから、今度はそれ以外のところも徐々にやって、とにかく道路の整備ということとは、都市としての最優先すべきことと私は思っておりますけれ

ども、なかなか全体のバランスの上から見て、学校も重要だし、いろいろ重要なものがございすから、そこばかりしほるわけにはいきませんけれども、今後もしやういふことで、私は十二月でやめるわけですから、私がやるわけではないけれども、次の市長さんに私の意思を引き継いで実行をするようにお願いしたい。またそういう方は実行されると信じておる次第でございす。

それから、公害対策の行政指導の限度というようになことでございす、公害対策につきましては、世界的な問題特に日本は激しいでしやうね。一昨年でしたか、公害に対する条例も制定してそれでいろいろやっておるわけですが、いろいろのこともございすけれども、畜産公害もありますし、海水汚染また工場からの排出するものの公害、海上における公害とかいろいろございまして、それぞれそれに対しては対策を講じておるわけでございますけれども、なかなか皆さま方にいいお答えができるような面もないと思ひますけれども、今度は大気汚染の度をはかる機械も注文して買ひようなことにしておりますし、いろいろやっておるわけですが、またこの点につきましてはいろいろ御指導をお願いたいと存じます。

それから、交通相談員制度のその後の活動状況でございす、館山市は交通の重要性にかんがみましていち早く、現在は十四名と思ひましたね。交通指導員を配置しておるわけですが、この交通対策と申し上げても、指導員は学校、老人クラブ、婦人会等に行つて実際に交通の規則を指導しております。しかし、ふだんの仕事としては、やはり危険箇所における交通の指導、こういうことでございす、まず交通事故の起こるこ

とは、いわば交通指導員の言うことを聞かずにやってな行動をする人が多く交通事故にかかると存じます。

私の知つてあるあるお寺のお坊さんが東京にこの前、一カ月前でいい前ですが、民宿で交差に行つたときに、歩道じゃないところを歩いたために、脇からダンブカーがきて突き飛ばされて脳震とうみたいなことをおこして目下重体だといつておりますが、歩道はちゃんと線が引いてありますから、そこを信号を見ながら指導員のいうことを聞いて、守りさえすればおそろくそういうことはないと思ひます。

仮りにあつたとしても、ちゃんと定められたところで行動するとすれば、それは交通違反にならないですね。また損害賠償にもびつたり該当するじゃないかと思ひますが、とにかくかつてに横断歩道でないところを渡る人がずいぶんいますね。私も東京に行きまして、見ておりましてはらはらする面がありますが、とにかく交通指導員は警察署の指導によつていろいろ訓練されておりますから、指導員の指導に従つて行動すれば、そういうことはないと思ひますね。

今、交通指導員のサービスの度合いとかいうことになると思ひます、婦人会、老人クラブ、学校の生徒、児童、幼稚園さういふところに行つて手を引いて指導しておるといふようなのは、やはりこれは交通指導員のサービスといつてもいいと思ひますが、館山市は他市に相当さがけて指導員制度を置いて、現在十四名ですか、やっておるわけですが、これに対しては、まだ信号機の不足もございす、信号機はいろいろロータリークラブとか、ライオンズクラブの方々の寄贈等によりまして相当でまし

たけれども、まだまだ設置を要するところもございしますが、これらにつきましても、また県のほうと相談してひとつやって交通事故のないようにいたしたいと考えておる次第でございしますが。

流山さん、あまり要領を得ませんでしょうが、あとはくわしいことは課長からお聞き取りをいただきたいと思います。よろしく願います。

○三番（流山源次郎君） 建築の主管課にお伺いいたしますが、これははっきり名前を出しますと、那古の市営住宅の件でございしますが、那古の市営住宅の住居者に対して、市のだれか、職員の方なり、だれかが入居するときに将来必ず払い下げをしますということを住民の方に言ったということを住民がはっきりと覚えておるんですが、私は住民の方から聞いた問題ですが、市としてはそういう将来払い下げをするということを言った人があるかどうか。お聞きいたしたいと思います。

○建築課長（佐野甲子郎君） 私は、まだそういう話聞いておりません。

○三番（流山源次郎君） これは非常にむずかしい問題で、言ったか、言わないか、ここにきてあれは出ないと思いますが、実際、私が市民サービスの面で質問することは、那古の住宅地の方は長い間とにかく将来は払い下げするんだ。そこに対して夢を持ってあそこは何十年も住みついておるわけです。その方たちも市営住宅に入るといふことで、失礼ではございますが、あまり裕福ではなかったと思うんですが、将来自分の持ち家になるんだという希望があるために、そこに住みついて自分たちの一日一日の働きを楽しみながら今日までやってきたと思うんです。

ところが、それが、そういう払い下げがないということは、元からわかっておれば、その方たちも当然自分の家を持ちたい。持ち家をやりたいということになれば、土地については住宅地なり基礎は何かしら借金してもそのもの自体は何とか求めたというように話をさせていただきます。

ただ、市のほうとしてこの住宅を将来いつて払い下げるということに対して希望を持って、そのために自分たちとしては毎日毎日を楽しみにして働いておるといふことなんです。そうなってくると、現在もう地所なんかというものはものすごく物価が上ってしまつて百万円、二百万円ぐらいの少しぐらいの金ではどうにもならないという中間以下の住民の苦しみなんです。

そうなってくると、現在市営住宅に住んでいる方たちに対して市としてはこの方に対する夢とか、そういうものに対するなんか気持の上での希望を持たせるといふような考えがございしますか。それをお聞きいたしたいと思います。

○市長（本間 譲君） 流山さんのあたたかい気持というのは、私もよくわかります。

それは、おたくのおっしゃるところは特別離れておるところらしいですね。そうじゃないですか、独立しているところじゃないですか。くっついていゐるんですか、いっぱい。

○三番（流山源次郎君） 那古の住宅に入っておる全員の方ですね。○市長（本間 譲君） 全員ですか。私はぼつんとある二軒ぐらいそうじゃないんですか。そうじゃないとすると、やっぱり今のところまずいですね。私はぼつん、ぼつんとあるならば、二、三軒ならば何とか了解してもらつて聞いてみてもいいかと思つて申し

上げたんですが。

○建築課長（佐野甲子郎君）　ただいま、市内にはやはり住宅に困窮して市営住宅に入居する希望を持っておられる方もありますし、市といましては、そういう方もまた現在居住している方も、やはり同じ市民でございますので、やはり払い下げはいたさないで、皆さんの低所得者の方のこれを御利用に備えてまいりたい。このように考えております。

○三番（流山源次郎君）　市営住宅の問題は、いろいろ市長さんのお話にもございますし、相当課題があると思ひまして、ここでどうこうということはできませんが、なるべく住宅地に入っておる方たちに対して少しでも希望の持てるという線の努力していただきたいと思ひます。

それから、公害対策の問題でございますが、先ほど私質問したとおり、一つのそういう問題、テーマがあつても市のほうの権限はどこまであるのか。それをちょっとお聞きいたしたいと思ひます。

○衛生課長（館石勘治君）　ただいまの、先ほどの御質問の具体例につきましてのことでございますが、市としては公害防止条例に基づいての公害対策、このような見解を持っておりますし、具体例の問題につきましては、市民サービスの観点等から、私たちはお申込みに応じまして加害者と思われるような方たちと話し合いの場を設けるということで、その努力をしてまいりましたんですが、それが突らずに現在に至つておる状況でございます。

○三番（流山源次郎君）　館山市でも市の公害に対するところの行政指導の面についてもある程度限界はあると思ひますが、せつか

く水産課なり、衛生課なりが再度にわたつて先方の会社に対して交渉の話し合いをする働きかけをしてくれたんですが、それが結局春からずっと今までないんです。

われわれ漁民としては話し合いを市なり、市の水産課なり、衛生課が中に入ってくれたんだから、いつかあるだろう、いつかあるだろうということで地元民が待ってるわけです。ところが、春から現在夏が過ぎて秋に入ろうというときに、何ら話し合いの進展の場が持たれないということで、私なんかせっかくこういう一つのケースもできたんだし、せっかく中に入つたんだから近い将来話し合いの場を持たせる努力というものはしていただきたいと思ひんですが、その点どうですか。

○衛生課長（館石勘治君）　市の立場として相手に強制できる立場ではございませんので、これをもし被害者の方から申請があれば県の公害審査会等の機関もございしますので、そちらのほうに取り上げていただくというような方法も考えられますので、もしそういうようなお考えがあれば、市としてもそういう労は惜しまないつもりでございます。

○三番（流山源次郎君）　よくわかりました。

それから、交通相談員制度と実際の市民へのサービスということでございますが、私は交通相談員の制度を云々ということではなくて、これも先ほど通告質問の場所細かい点についてのサービスという点についてお聞きしたいんですが、実は、私ども交通相談員になりました、市の交通課の指導によって年に何回か相談員としての知識を得るためにいろいろ講習会なり、そういうものが持たれるのでございますが、たまたま最近になりました、交通相談

の中に特別事故があつても、保険を対象にいたしますと、加害者の場合には、それを病院なり、何なりに払ったという証明がなければ保険でも金をさげてこないし、またその手続をとつても大体一カ月以上過ぎてしまう。被害者請求ができるといつても、やはり同じく期間は一カ月ぐらいのものが、手に入ってくるというところになるとかかると。手に入るまでに。そのときに、加害者も、被害者もわらをつかむ気持で、そのときにほしいのは金なんです。病院なんかは一週間なり、十日に付添い婦なり、室料なりという請求が必ずくるんです。被害者に対して。その場合に、被害者としても自分の持つてゐる貯金なり、そういうものはほしいてもその場をしのぐためにはやりますけれども、結局被害者、加害者において一時的にも幾らかの金がほしいということは相当要望があるんです。

ところが、幸いに今度の私なんか相談員として指導を受けたものは、そういうことがあつた場合には十万円まで無税で市の窓口を通じて、警察の事故証明なり、それから印鑑と住民票を届けければ、応急の場合には十万円まで無料で貸してくれる。市の窓口を通じて県の福祉関係でございませうか、すぐにそういう金をやってくれることは非常に相談員として交通事故にあつた人に対してありがたいと思ひます。

ところが、たまたま今年になりました、その御主人が千葉において追突事故で、その方は自動車を運転しておつて何にも、少しも違反はなかつた。追突されたほうの車が非常に過失があるんですが、そのために千葉の病院に入院してしまつたという事実が起つたんです。その当時には、サラリーマンの方でしたので、今

までは何とか普通の生活をしておつたんですが、急に暮から非常に物価が上がつたということから家庭で頭を悩ましておつたのに、主人が事故を起こしてしまつたということから、館山から特急で行つて、主人のほうに行つては帰ってくるという生活を繰り返すために金というものに相当困つたんです。それで相談をされましたので、市のほうとしてはこういう制度があるんだ。別にあなたの方のはじをさらすようなことではないのだから、事故証明をもらつてきて、住民票を取つて印鑑をつければ、窓口で十万円ぐらいの金は何とかなる。おたくのはじをさらさなくてもやれるからというところで指導したんですが、むこうもその制度をお願いしたいということ、市の交通課にきたんです。交通課にきましたら交通課のほうでは非常に親切にその問題に取り組んでくれたんですが、十万というわれわれ指導員が相談受けた十万円の問題は、今こういう制度はあまり利用されてないんだといふんです。

ですから、保険のほうに申請すれば、保険のほうでは一時金でもさげてくれるのだから、保険のほうをやつたらどうですかといふから、保険では今の困つた事態に間に合わない。一カ月前にならなければ困るのだから、今すぐにほしいのだから、その制度はあなた方はわれわれ指導したんですから、その制度をしてもらいたい。それでは早速しましよつたといふことで、今度は交通課のほうで話を聞いてくれて手続の段階になつたら、書類が福祉課のほうに回つておるといふんです。県からの申請用紙が福祉課のほうに回つておるから福祉に行つてくれといふことで、福祉のほうでは今書類がどこに行つてゐるか分からない。そういうことで二、三日待たされた。

そうすると、結局今度は証明が千葉で事故だから、千葉の警察まで証明をもらいにいって持ってきたところが、免許証の書きかえの関係上、住所がちよっと現住所と変更がありまして、警察のほうでは免許証の中の現住所を証明に書いてくれたんです。ところが現在の現住所とちよっと違う。それを市民課に行って話を聞いたら、市民課においては住民票を出すのだから、市長の証明になるその住民票をつけてやればさしつかえないでしょうということで、それをつけて再度福祉に行つて福祉で書類を取り寄せてもらって、それを県に出したんです。

県の地方事務所から福祉を通じて何と書いてきたと思うんです。証明書が字が違っているからまた書き直してください。館山の問題であれば、館山の警察署で間に合うが、また千葉の警察に行つて証明してもらわなければならぬということになると、何回も行かなければならぬ。こちらのほうの奥さんはもういいというんです。そんなに何回も、流山さんは簡単にできると、そういう困ったことに対して便宜をはかってくれるということをやったんだから、何回も千葉に行く。そんなうるさいことだったらほかから借金して何とかつとめますからということと終ってしまった事実があるんですが、結局交通相談員のそういういい制度があつても実際市民に対して細かい末端にいくとそういうものが生かされてないということは、非常に私なんかとしても不満でございますので、この点についてのお考えを聞かしていただきたいと思ひます。

○福祉事務所長(斉藤武男君) お答え申し上げます。なんか、事務上のいろいろの手違いがございまして、たいへん御迷惑をかけましたことをまずおわび申し上げたいと思ひます。

被害者に対します貸し付けというものが、私のほうで社会福祉協議会のほうで取り扱っておるわけでございますが、本当に私、監督不行き届きで本当に申しわけないと思つておりますが、そういうことのないように十分注意をしたいと思ひます。

特に、住民サービスにつきましては、先ほど市長からいろいろ話がございましたように、最善の努力をしておるわけでございますが、いろいろ事務上の手違いがあつたようでございますが、再調査をいたしまして御期待にそうように努力いたしたいと思ひます。

○三番(流山源次郎君) 話はよくわかりましたが、そういうわけで、せっかくのアイデアも末端に行つて事務の手違いとか、そういうことになると、結局市民がせっかくいい施策に対して反発を起すような結果をおそれるために私申し上げたんで、以上の点をお互いに注意し合つて進んで、館山市の行政を進めていきたいと思ひます。

以上で、終ります。

○議長(吉田勇治郎君) 以上で、三番議員君の質問を終わります。午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時開会といたします。

午前十一時三十分 休 憩
午後 一時十分 再 開
○議長(吉田勇治郎君) 午後の出席議員数二十八名、休憩前に引き続き会議を開きます。

一〇番議員渡辺軍治郎君。

(一〇番議員渡辺軍治郎君登壇)

○一〇番(渡辺軍治郎君) 私は、次の二つの問題について質問し

たいと思います。

第一は、一中跡地の売り払い問題について、第二は、幼児保育の改善についてであります。第一の一中跡地の売り払いについては三月の議会でも討論されておりますし、六月の議会でも質問をいたしました。六月議会で質問した際に、市長は十二月まで私の手ではやらないといっておりますが、確実な見通しがあるのかどうか。市長の真意をお伺いしたいと思ひます。

次に、一中跡地の払い下げを申し込んでおる会社は三菱商事、ミナミ工業、間組、トーマン、千代田観光、物産不動産、新釜旅館、館山マリンホテルの八社がありますが、この八社の利用計画を見ますと、ほとんどがホテル、マンションが中心で、これにスポーツ施設が付随しています。

市長は、御光に役立つ施設をつくることを条件にしたいといっておりますが、八社の利用計画をどのように見ているか。お伺いします。

次に、一中跡地の利用について、地元の人たちや市民は現在もスポーツのためのグラウンドとして利用しているし、社会体育の場として利用されることを望んでいます。また、市民のだれもが自由に出入りのできる公園的なものという声もあります。いずれにしても一中の移転は三年先のことでありますので、跡地の利用についてはもっと慎重に考える必要があると思ひますが、その余地はないのかどうか、お伺いします。

第二は、幼児保育の改善についてですが、保育料が館山市は高過ぎるという問題であります。お隣の鴨川市との比較で見ますと、鴨川市は公立保育園九カ所で収容児童数は六百六十九人、こ

れは四十八年度の十月調べであります。館山市は公立、私立合わせて十カ所六百四十五人、これは四十九年四月調べであります。

これを見ますと、鴨川と館山市では保育園の関係では大差はありません。予算規模は鴨川市は館山市よりも小さい規模であります。

ところが、保育料は九月一日から値上げになっておりますが、値上げ前の鴨川市の保育料はD六プラス三歳未満で九千四百円、館山市は最高で二万四千九百十円、平均で二万三千七百七十円、館山市のほうが一万四千三百七十円も高い、値上げ後でも鴨川市は一万円に対して、館山市は最高で二万七千八百九十円、平均で二万六千八十五円で、鴨川市より一万六千円も高くなっております。県下の市町村の単独の徴収基準と比較しても、館山市の保育料は二倍以上になっております。

館山市は、厚生省の保育料徴収基準をそのまま実施していますが、県下の市町村で独自の徴収基準額をきめて、安い保育料を実施しているところは三十八市町村で、全体の五三％になっております。

市長は、福祉を最重点施策として、先般福祉都市宣言を發表していますが、市独自の保育料徴収基準額を他市に優先して実施すべきだと思ひますが、その考えがあるかどうか。お伺いします。

三月の議会で、千葉県職員組合安房支部六百三十名から提出された長時間保育の請願が満場一致で採択されております。勤務の關係で多くのおかあさん方は長時間保育を要望しております。この要望にこたえて保育時間を午前七時から午後六時までにするべきだと思ひますが、その考えがあるかどうか。また、保育時間の延

長に伴って保母の増員が必要になると考えられますが、県の単独事業としての予備保母制度を活用すべきだと思ひますが、合わせて質問いたします。

以上で、質問を終わります。

(市長本間 譲君登壇)

○市長（本間 譲君） 渡辺議員さんの御質問に對しましてお答えを申し上げたいと存じます。

一中跡地につきましては、数回にわたりいろいろ渡辺さんから御意見もございましたが、私としましては三月議会におきましてあれを売り払って一中を建てるという御決議をお願いしたわけでございまして、この点は渡辺さんも御了承と存じますが、私は執行者として、議会の議決を尊重してそれを忠実に実行する立場にあるわけでございまして、これは方法はいずれにしましても、一中の跡地を売り払うと、これは予算決議に基づきましてそういう考えを現在しておるわけでございます。

それから、その跡地を分譲してもらいたいという申し込みは確かに七、八件ぐらいあると思ひますけれども、中にはこの間渡辺さんからだいたいんちきのようなものがあるということも伺っておりますけれども、私としてはその八件ぐらいの申し込みの会社の内容について自分としてはまだ検討をしません。それは事務当局のほうではある程度調査はできておると思ひますけれども、これはやはり市には評価委員がございまして、評価委員の評価に基づきまして、また皆さま方の御意見を伺って、そうしてこれを適正な価格で入札を行なうということであるわけでございますので、くわしいことにつきましては、あなたが大体お調べのようでござ

います。私まではまだそのくわしいことはまいっておりません。しかも、私は十二月十日で任期満了しますので、こういう問題を私の手で処分をする意思は現在のところ持っておりません。後任市長さんによつて、まだ時間がずつとあるんですから、やっていたきたいと思ひておるわけでございます。

そういうわけでございまして、何か別の利用計画はないかとおっしゃいましたが、これはやはり議会の議決を尊重しまして、議決に従つてやる以外には考える余地もございません。

児童保育の改善ですが、保育料というものは国及び県のほうから指示があつてそれに基づいてやっておるわけでございますが、これはどこでもそうじゃないかと思ひますが、館山市におきましては、御承知のように四、五歳児に對しては教材費という名目のもとに年間一万四千四百円を助成して軽減をはかつておるわけでございます。

もっと安くならないかということですが、私も普通の人は特別としても、収入の少ない家庭に對しては考慮してもいいじゃないかという考えは持っていますけれども、今私がこれを補正してそういうことをするという考えはございません。これは次の市長さんにそのむきを申し伝えて考慮を願う。こういうことで渡辺さんのおっしゃることについても、私もそういう考えを持っておるわけでございます。

それから、保母の問題についてですが、四月からは四名増員して四十名ですかということになっておるわけでございますが、今度つくられます乳幼児を主たる保育園については十四、五名の保母を採用していきたい。

それから、時間の延長ですが、朝七時から六時ということはいきわめていいことだと思いますけれども、そんなにしなくても私はいいじゃないかと思いますが。七時半から五時半ぐらいまであったらいいじゃないかと私は思っていますけれども、これはまた教育委員会等においていろいろ当事者やなんかと協議して、また父兄の方々と協議してできる限りそういう線にそっていったほうがよろしいと思いますが、現時点においては支障なく私はやってやるんじゃないかと思いますが、これは保護者と教育委員会との間において検討してなるべく預けるほうの便宜をはかって、子供の完全保育ということはきわめて重要じゃないかと思っていますので、よろしく願いたいと思います。

以上を申し上げまして、私の答弁といたしたいと思います。なおくわしいことにつきましては、課長やなんかおられますから、教育委員会の方々もいらっしゃるので、そちらのほうから追質問をお願いしてもけっこうと存じますが、よろしくどうぞ。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 再質問しますが、市長さんにお尋ねしたのはですね。市長さんが十二月でおよめになるということで、あとは次の市長でということになるわけですが、市長さんの話では三月の議会で議決しているの、その線にそって実行するということをおっしゃいますが、私が質問しているのは、その見通しについてお伺いしているわけですね。

見通しについては一つも回答がありません。予算を組む場合には確実を見通しをなければ予算には組めないはずだと思ふんです。おそらくこれは地方財政法から見ても、予算を組む以上は確実な見通しがなければ予算執行できないはずですから、その点について

ではある程度の見通しがあったから予算にお組みになったと思うんです。まず、その点についてどんな見通しでこの予算を組まれたのか。そのところをひとつお聞きしたいと思っています。

〇市長（本間 謙君） その問題につきましては、あそこは前から観光の仕事をやるということで申し入れが、あなたが調べになったように何人か、七、八人あるわけですよ。そういうものもあるし、また市の観光施策に合う事業をやる人に、大体入札ですから、そういう方々を選んで入札をしようということで、全然あてのないものをやったわけじゃなくて、いいところですから、観光施設をするには観光業者とすれば非常にほしいのは当然でございますので、そういう見通しはあったからやっただけで、しかしながらその反対に売却するということは、適当な場所であれば、なくても買手があつたわけですね。今、地所というのは、いいところにあるのは相当買手もあるわけですから、いずれにしても、全くおさきまつ暗でやったわけじゃないですね。要望者もあるし、その中から市の観光行政やなんかに見合った、しかも力のあつた方を選んで入札しようということであつてやっただけでございます。以上です。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 市長さんの話では申し込みもあるから大体予算に計上してもこれは売れるだろうと、これは一つの推定だろうと思ふんです。予算を組む場合に推定で予算が組めるかどうか。これは地方財政法からいっても、大体話し合いがある程度ついて確実なそういうことがなければ予算には組めないはずなんです。そこに一つ問題があると思ふんですが、市長さんの話では競争入札でやるというふうなことです。三月議会でこれは特

別委員会でも相当論議になったと思うんですよ。

そのときに、特別委員会では「一中の跡地の売り払いにつきましては本会議におきます質疑によってその方向については確認されているところでありますが、市の将来の発展計画を考えると、処分については慎重を期すべきとの観点から、いかにしても市有地として確保できないか。また、処分するについても民間の企業ではなく、市の開発公社に引き受けてもらう等の方法が講じられないか。重ねて市の見解をただした。」これは特別委員長の報告であります。

それに対して「本年の財源事情から三億円程度の売却代金を計上せざるを得なかった。売却の時期については三月ということとで予定しており、問題は売却先であります。方法としては開発公社に一時引き取ってもらうか、競争入札によって適当な業者にと、いう二つの方法が考えられますけれども、年度最終時点まで慎重に考慮してまいりたい。」こういうことを当局側は答えているわけですよ。

ですから、確実な見通しというものが、結局開発公社に一時肩がわりして慎重に考えるというように、当局側は答えているわけです。

市長さんの今の話は、議会の議決をいただいたんだから、当然これを売るといふようなことを言っているわけです。三月議会でも本会議でも、特別委員会でも相当論議された上で、市当局はこういう回答をされていると思うんですよ。ですから、まだそういう点では、はっきりと観光施設をつくってくれればということと申し込んで、はっしりという会社で売るといふことがはっきりしてないわけですよ。

よ。流動性があるわけです。流動的なそういう観点に立つて当局は三月には答えていると思うんですよ。

今、市長さんのいうことは、私は十二月で任期が切れる。あとはかわった市長がやるわけです。かわった市長がどういうことをやるか、そういう点で市長さんの考えと、かわった市長の考えが食い違った場合に、これはかなりまたこういう御答弁をしていても違ってくると思うんですよ。そこで、確実な見通しがあるのかということをお聞きしているわけなんです。これはおそらく財政課長もこういうような立場で回答していると思うんですが、私が三月において質問したときも、公社を払い下げの対象にするというように言っています。そういう点で、市長さんの言う業者が払い下げるといふことを市長さんは一方的に強調しているようですが、そこらの食い違いはどういうふうにお考えになるのか。明らかにしてもいいと思います。

○市長（本間 譲君） 渡辺さん、ずいぶんあんた困らせることをおっしゃるですね。私は、議会の議決に従って処分するという方針を貫くことでございますから、それがその観光業者に売るか、あるいは開発公社に売るか。どっかにとにかく売らなければ学校のほうに回せない。こういうわけで、売ることについては、たとえ変更はございませんし、また、議会で議決を願っているからそれをなるべく有効にこれを処分していくことが、どなたでも市長たる者は責務じゃないか。こう考えておりました、売却ということはそのとおりでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 売却ということはわかっていますが、公社の問題なんです。これは三月議会の特別委員会で公社に売

却することもあり得るということを書いてすよ。その点はどういうふうに見ているかということなんです。それをひとつ簡単にいいですか。

○市長（本間 譲君） 公社に売るということは私としてはあり得ないと思います。それはしかしながら、いずれにしても学校を建てるについでしかたがなければ、だれも買い手がなくて予定価格に達しない場合には、あるいは公社にやるかもわからないけれども、おそらくそんなことはないとは私は確信を持っておるわけでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 私がこれをお聞きするのは、今、市長選がもう始まっているわけですよ。ある市長候補が一中跡地の問題について、支持を得るためにこの問題をどうこうというようにすることも耳に入っているわけなんです。それで、そういうことがありますから慎重に扱わなければならないし、市長さんは十二月にやめるわけですから、かわった新しい市長がどういう方向で、この問題を解決するか、選挙の中でもううわさになっておるような方向でこれを解決すると、相当問題が出てくるというふうに考えますので、一応見通しについてお聞きしたわけです。市長さんの考えもはっきりしましたので、そういうものもありますから、私たちはこれは警戒しなければならぬのじゃないかというふうに考えているわけです。

次に、お聞きしますが、この前マリシホテルについて、この館山マリシホテルがどこにあって、経営者がだれなのか、お聞きしましたところが、調べてお答えしますと、わかりませんと、こういうことを言っているんですが、経営者がだれか、どこにあるか、

そういうことをお調べになったと思いますが、まず、その点をお聞きしたいと思います。

○企画課長（伊藤幸太郎君） 今の御質問の点でございますが、前回にもたしかこの問題が出まして私、お答えしてあると思いますが、この今お話しのごさいました会社を含めまして八社のいわゆる内容につきましては、まだその時点ではないようでございますので、内容的にも調べてございませんといいお答えを申し上げます。まずだと思えます。この一つだけを取り上げまして、後日調べた上でお答え申し上げますというようにすることについてはちょっと私記憶はございませんが、今申し上げたとおり、申し込みを受けております会社につきましては、まだ対象にするかどうか、払い下げの対象として考えるかどうかということもまだ未定のはずでございますので、内容の具体的な検討等はしておりません。そうお答え申し上げます。今もかわっておりません。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 今の答弁おかしいですよ。私の質問したのは議事録にのっているわけですよ。その議事録見ても「お知りになる必要があれば後日調べてお答えします」と、こういう回答をしているわけですよ。

しかしですよ。この問題は企画課で登録するのはどういう人が登録にきて、一体このホテルがどこにあって、経営者がだれであるのか、それぐらい聞いて登録するのが常識だと思ふんです。それをこの前の質問では知らない、わからないと答えているんです。あとで調べてお答えしますと、今までにその回答はもらっていないから今、またここで質問するわけですよ。今の企画課長の答弁は議事録調べてみればわかりますが、うそですよ。どうですか。今

でもわかってないんじゃないですか。内容を言ってるわけじゃないんです。この八社の計画内容そのものを聞いてはいないんです。マリンホテルがどこにあって、経営者がだれなのか、それを聞いただけですよ。どうなんですか。

○企画課長（伊藤幸太郎君） ただいま申し上げましたとおり、一つだけを取り上げて云々でございまして、あくまで私が申し上げたのは申し込みを受けております一応数社の会社につきましては、いまだ今お話しございましたようなものを含めまして経営内容、あるいはまた会社の状況、そういうものにつきましても含めまして、まだ具体的な検討はしておりませんと申し上げたつもりでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） おかしいですよ。私は、申し込んだ会社がどういう計画を持っているのか。そういうものを聞いてるんじゃないんですよ。申し込んだ会社の館山マリンホテルがどこにあって、経営者がだれなのか。これについてこの前はっきり聞いたわけです。そうしたら、名前はわかりませんと、あとで調べてお答えしますと、こういう返事をしたわけです。だから調べたなら、それを調べたけれどもわからないとか、調べませんでしたとか、そういう回答になるわけです。内容を聞いてるわけじゃないんですよ。もう少しはっきりしてもらいたい。

○企画課長（伊藤幸太郎君） 再々申し上げますとおり、表現の問題が出てきたかと思いますが、まだ調べてございせん。

○一〇番（渡辺軍治郎君） これは全く議会を軽視していますよ。議会で、わからないからあとで調べてお知らせしますと答えているんですよ。これは今調べてないというようなことで、全く

これは議会軽視ですよ。調べて答えるということを終束しているわけです。言えないんじゃないですか。実際は、おそらく企画課に登録する場合にだれが登録にきたのか。申請にきたのか。それすら答えられないのじゃないですか。

だから、市長選の中で一中跡地の問題をめぐっているのうわさが出ています。けしからぬと思うんです。そういう取引的なことで選挙運動をやるのは、そういう疑惑があるから私が質問をしているわけです。経営の内容について、あとの問題ですが、その点は一企画課長はどういう立場で登録したのか。登録にきた人もあるわけですから、きた人はそれはだれですか。

○企画課長（伊藤幸太郎君） 前回にもこの点ではお答え申し上げたと思いますが、あの時点におきましては、また繰り返すようでございますけれども、こういう申し込みがきておる。それで書類、その他についてはひとつ企画課のほうで предвариしておるといふ状態でございましたわけでございます。でありますので再々申し上げましたように、これが具体的に、しからばあの一中跡地を会社を選定して払い下げ云々の問題になります場合には、お預かりしておる書類についてこれは十分検討せざるを得ない、またすべきだと思います。しかしながら、そういう時点になっておりませんので、お預かりしておるといふような意味合いで私どものほうで保管しております。そうお答え申し上げたはずでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 私は、そういう内容の検討を聞いているわけじゃないんです。だれが登録にきたのか。それぐらい答えられるんじゃないですか。経営者もわからない。どこにあるかも

わからないというような、こういう会社の申し入れを、大体一中跡地は三億円以上の金を動かせるという会社はざらにはないわけですよ。おそらく最終的には一社か、二社か、そういうものにしほられると思うんですよ。

しかも、あそこでもって旅館を経営する、マンションを経営する。そういうようなことでいろいろ旅館だとか、マンションの経営が館山のあの海岸で成り立つと思いますか、どうですか、館山は白浜と違って旅館でもって大きな旅館が経営する条件というのはございません。今のところガーデンだって松本電鉄に転売しているわけでしょう。経営がやりきれないから、白浜だって最近の旅客の不足では旅館業者は相当四苦八苦です。館山市のような旅客が集中しないところでは大きな旅館は成功するはずはありませんよ。まして今、金融の引き締めとか、それから土地、建物の売買というものは停滞しているわけですよ。ですから、そこに莫大な投資をして成り立つかどうかということだって疑問ですよ。これはしかもゆりれい会社です。足があるかないか。それぐらい確かめるのはあたりまえでしょう。(笑聲)どんな会社かわからないような、そういうことで市は、きたものを何でもかんでも受け入れる乱暴ですよ。これはむちゃくちゃですよ。そんなあればないと思うんですが、企画課で出したこれを見ても、内容を見ると二十五億の投資計画を持っているわけですよ。果して、申し込んでいる会社の経済力が一中の跡地を買収してそういう事業がやれるかどうかということが、この内容やなんか検討しなくちゃいけないわけですよ。一応どういうものか見て、実際ホテルが館山にあるのか、経営者がだれなのか、それぐらいの検討をしてない

で、一体企画課の役目がつとまるかどうか問題です。だれだかわからないというものをに入れて、あとで検討しますという、こういうことでしょう。全くこれでは話になりませんよ。これは売るといってもたいへんな問題が出てくると思うんですよ。将来あそこに出資して大体成功する見込みのないものが買い手に回らないと思うんですよ。今、ミナミポールだって転売に出ているわけでしょう。転売すれば何がそこにあるかわかりません。

あの海岸線は、館山市が将来観光都市として発展する場合に公園なり、そういうようなものとして要するに観光事業として確保する重要な土地だと思っんですよ。それを観光業者に提供して何ができるか、先にいったらきさんで売られるようなことだって出てこないとは限らない。そういう重要な土地だから確保しなければならぬじゃないか。もっと慎重に考えなければならぬのじゃないかということを私は強調しているわけです。それは企画課の考えというのはわけのわからないゆりれい会社の足があるかわからないような会社を受け入れて、それでもって買収の対象にするなんて考えられないことです。企画課がわからないということはないと思うんです。言えないというだけのことだと思うんですよ。

この問題は、追及しても非常に不可解の問題で、私は黒い霧の問題じゃないかというふうに、こういう問題があるからそういうふうに見ているわけですよ。そうして裏のほうでは、一中跡地の問題が選挙の取引に利用されるというような問題まで出てきますと、重要な問題になるわけですよ。

市長はやめてしまいますからいいですけど、次の市長にな

ったら、これはどうなるかわかりませんよ。あんまり予算の組み方として無責任な組み方じゃないですか。市長がやめるまぎわにしかも、三年も先の跡地利用をやめるまぎわにきめて逃げちゃう。あとは次の市長やりなさい。おまかせしますというようなことではあまりに無責任過ぎると思うんです。この問題は時間がありまけんから、まだ私たちはどういうふうに扱われるか、そういう問題では監視を続けていきたい。そういうふうに考えております。

それから、保育料の問題に移りますが、保育料は市長さんはやる考えはない。国や県の指示でやっているとありますが、これは県下の市町村調べてみましたが、五三%以上が独自の保育料の基準価額を設けてやっておるんです。それをみますと、館山では倍ですよ。クラスとして〇、D一、二、三、Dの六までありますけれども、特に三歳未満の子供は今度値が上って二万七千円でしょ。鴨川は一万円ですよ。一万七千円も違うんです。

福祉都市を宣言している館山市が鴨川と比較して一万七千円も高い保育料を取る。これでは福祉都市宣言が泣くと思うんですよ。市長さんは福祉に重点を置いていっていましたが、すすんだところでは独自の基準額を設けて安くしているんです。半分以下ですよ。基準額の。館山市は厚生省の基準そのまま実行していますから、館山市だって福祉都市に重点を置くならば、そういう他市との比較において大体同じぐらいまではできるのじゃないか。そういうことをお聞きしているんですが、やればできると思うんですよ。やる考えがないからできないので、福祉都市が看板だけになっちゃっているわけです。そういう点をどういうふうにお考えになっているのか。お聞きしたいと思います。

〇市長（本間 謙君） 渡辺さん、市有地一中の地所のことは、やめる市長が無責任だとおっしゃるけれども、しかしながら、私は私個人でやっていませんよ。議会の協賛を経て決定しているんですよ。しかし、私のもっとやりたくても任期がないんですよ。任期がないものをやれといってもそれはやれませんか。そんな、誹謗というんですか、なんというんですか、おかしいじゃないですか。

それからもう一つ、保育問題は、単に保育問題だけあんたとらえるからそういうことになるけれども、それなら、館山市のように福祉施策を鴨川でやっていますか、まだいくらでもありますよ。そういうことは今後の問題として私も考えて、次の市長にもなるべく軽減をはかるようにやりたい。

現在は、一万四千四百円ですか、四歳、五歳児に対するこれは教材費という名目でやっているけれども、金は金ですから、あんなのいうことを尊重していこうとしているわけですけれども、私が一中問題は無責任にやるなんていうことを聞いては、おれはだまっていられない。議会を通してきまって、まだ処分したわけじゃないでしょう。あんた方がそれを処分しなくては議会の皆さんと相談して変更もできるでしょう。

しかし、市長は、議決したものを尊重していくのが市長の立場でしょう。私個人がそれをやってもうけべとかなんとかした覚えはさらさらなんです。市がそのほうが市のためによくて、財政の貧弱な館山市がrippな学校ができていいと、こういうことでやっているわけでして、なんかちょっとあんな誹謗するようなことを言われて、私としては心外だね。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 市長を誹謗していったわけじゃないですよ。

三年先の移転を市長がやるまぎわに予算に組むということは相当の確率を見通しがなければ予算に組めないはずだ。予算に組んでおいて市長がやめていく。次の市長に申し送りますよといっても非常に無責任じゃないかということも言ったわけですよ。

予算を組む場合に、地方財政法では厳正に審査して、大体確実性がなければ予算組めないと思うんです。それがもし、だめになった場合には予算執行できないはずですから、そういう点で、一つの問題があるし、また、ゆうれい会社が入札の中に入っている。企画課がそれを登録して、それが相手がわからないなんて、こんな無責任な話です。これだって市長に責任がありますよ。だから言ってるわけなんです。

だから、この問題は非常に時間がなくてしりきれになりますけれども、そういう点で問題があるということをはっきりしておきたいと思います。

また、保育料の四歳、五歳の問題については、これは一人千二百円です。それを市長さんがやったのは市長さんの選挙のときで今の金額にすれば千二百円じゃ済まないと思うんです。私立の保育園には教材費として千二百円いってるわけです。しかし、そういうところの保育園児の保育料というものは千二百円を差し引いても相当高額な保育料になってるわけです。これは税割りとかあるいは税に基づいて保育料各クラスきめられておりますが、今の考えでいけばおそらく四歳児、五歳児相当高い保育料になっていると思うんですよ。そうすれば、教材費ももっとふえて私立の

そういうところの保育料も軽減されなければならぬはずですよ。しかし、大体三十八都市ですか、五三%の市町村で安い保育料をきめているわけですよ。だから、そういうことが館山市でもやろうとすればできないはずはない。

市長さんの話では、新しい市長にそういうことを申し送ってやるようにということですから、これはひとつ他市と比べてあまりに高過ぎる保育料の、あるいは保育園の魅力というのは、一般家庭のみんなに預けるよりも安い金で預かってもらえる。設備のいいそういうところで安い金で預かってくれるというのは保育園や保育所の一つの魅力になって市民がそれを要望しているわけですよ。あまりに高過ぎれば、これは預けようとしても預けられないということになりますよね。これはDの六だけじゃないんですよ。全クラス館山は倍以上の保育料になってると思うんですよ。だから、こういう点はぜひほかのすすんだところに見習ってやってもらいたい。

それから、もう一つ。……………

〇議長（吉田勇治郎君） 一〇番議員さん、申し合わせ時刻でございますので、

暫時休憩いたします。

午後一時五十八分 休 憩

午後二時二十五分 再 開

〇議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

九番議員辻田 実君。

（九番議員辻田 実君登壇）

〇九番（辻田 実君） 七つの点につきまして御質問を申し上げた

いと思います。

本間市政も十二年間非常に力強く今日まできたわけでございます、現時点におきまして、まだ幾つかの点についていろいろと論議をしなければならぬ点があると思うわけでございます。

その第一は、清掃事業でございます。今日の市民の多くの人たちが清掃問題について非常なる関心を持っておりまして、

清掃事業の現況を見てもみますと、ごみの収集につきましては毎日六三・九トンの収集量がございます。これに對しまして、焼却場の焼却能力は三〇トンということが明らかにされております。ここで約年間平均一日当たりにつきまして三三・九トンのごみが十分な形で焼却されないという現状がございます。

汲み取りについても同様でございます。直営、民営を通じて一日当たり平均の収集量は七〇・九キロリットルということが明らかにされております。処理場の施設の能力は一日当たり四五キロリットルということでございますから、六〇%そこそこの焼却能力しか持っておりません。この現況があるわけでございまして、こういう中で行なわれておられるところの衛生事業につきましては、かなり無理があることについては御案内のとおりでございます。

その上に、処理上につきましては、両方ともに十年を経過しようとしているわけでもって、ある程度耐用年数に達しているわけでございまして、この現況を今日の時点ですべてのようにしていったらいいのか、どのようになさるお考えを持っておられたのか、この点について率直に御意見を伺わしてもらいたいと思っております。

この程度までできると、こういう形の上の方法があるということを明らかにしませんが、やはり市民の間においてもこれら

の協力、理解という面についてむずかしさがあるのではないかと、こういうふうに思うわけでございまして、そういう観点からお願ひしたいわけでございます。

二番目に、中学の統合と小学校の校舎改築の問題でございます。先般、全員協議会等で明らかにされましたけれども、三中構想というものも出てまいりました。このことについてはある程度の論議、見解というものは聞いたわけでございますけれども、現在市長さんが行なっておりますところの予算要求に対するところの座談会、この中等においても小学校校舎の建築をいそいでいたきたいという声が非常に多く出ておるわけでございます。

通告いたしましたように、那古小、船形小、館野小、富崎小、東小、九重小、神余小の改築はいそがなければならぬ点がございまして。すなわち、老朽、不適格校舎にある程度含まれておるからということでございます。

現在、館山市の小、中学校につきましては、一二、九二六へーべの不適格老朽校舎があるわけでございますけれども、そのうち小学校が七、〇五二へーべでございます。中学校の五、八七四へーべのうち、二中の改築等によりまして四五六二へーべの問題は解決という見通しがついておりますけれども、小学校の七、〇五二へーべの不適格校舎の解消についてはなかなか見通しがたらない現状じゃないか。長期計画等の中においてある程度の所信が出ておりますけれども、具体的にこれらの小学校等に対しての方向づけというものがまだあいまいじゃないか。

今後、この問題は、この校舎の改築の問題についてはかなり具体的に地域住民の要求として館山市政をにぎわせるのではないかと

というふうに思うわけでございまして、このへんについて、小学校の改築はどうするかという点についてお伺いしたいわけでございます。

特に、三中構想についてはいろいろの考えがあると思っておりますけれども、中学校を先行するのか、小学校の校舎改築を先行するのかという問題もあるわけでございますので、ここらへんに対する見解はどうなのか。中学統合案これは中学を統合する中において小学校の建築というものを考えていくべきだという方向が示されたわけでございますけれども、以来約十年間という経過をたどっておるわけでございまして、これらのからみ合いから三中構想それから小学校のこれらの老朽校舎の改善についてどのような方策が考えられるのか、今どのようなことが考えられておるのか。お伺いをしたいわけでございます。

三番目には、道路舗装とその改良でございまして、四カ年計画によりまして非常に市民の要望にこたえることができて、館山市におきますところの道路政策につきましては、苦しい財政の中でもってよくこまできた、これも本間市長の非常に力のあるところだということがまざまざ見せられたところでございます。この点については私は高く評価をいたしたいと思っております。

そこで、この四カ年計画をさらに市民のためのものに完成させていくには、先ほども質問の中でもって何人かの議員から指摘されましたように、残されたところの五〇%前後の市道の問題でございまして、多くが三メートル以下の里道だといわれるような問題が多いわけでございますけれども、それはそれなりの市民要求、住民要求というのがあるわけでございまして、これらについて非

常にことここに至って質問することについてはどうかと思っておりますけれども、この点について賢明なる市長さんのことでございしますから、率直に四カ年計画後に残された小さい道路の問題は、どのような腹案を持っておられるのか、どういう形で進んでいくことがいいのか。こういう点について御意見、御理解がございましたら聞かしていただきたいというふうに思います。

四番目に、農業の振興の問題でございまして、館山市は古くから農業、水産によって成り立ってきたところの都市でございまして。その中において最近、日本経済のすう勢の上から館山市においても農業が減少しております。農業の減少は農家人口の減少さらには農地の減少という中にも顕著にあらわれておるのじゃないかというように思います。

このことは、今日の館山市においては非常に館山市の経済力の低下という面に大きく響いておるのじゃないかというふうに思われますけれども、その点につきましてはさておきまして、次の三つの点についてはやはりかなり農民の間にも関心があると思うわけでございます。それについてのひとつお考えを聞かしていただきたいわけでございます。

安房中央ダムの建設につきましては、館山市をはじめ三芳、丸山の農家にとりましては大きな光明であったわけでございます。近代農業への一つのレールが敷かれたといってもいいのではないかと思います。しかしながら、丸山ダムの建設に始まってすでに十年以上が経過しております。最近ようやく基盤整備等の工事に入って、近く実際に丸山ダムの水が使えるようになるのじゃないかということが目の前に見えてまいりました。しか

しながら、今日に至るまでの丸山ダム完成の遅延状況から見えてきますと、実際に基盤整備を終って、実際に農家の田畑に丸山ダムの水が入ってくるのはいつだろうかということについて見通し、心配をしておるところの青年が非常に多いわけでございます。お役所のやることだ。いつになるかわかりやしないよ。おれらがやってくるうちに水が通ればいいんだけれどもなという、こういうことをいうような方たちが農村青年の中に何人か出ておるということ、これはこのまま受け取らなくても、ある程度行政に対するところの不信というものはあるのじゃないか。こういう不信がやはり農村青年の中に出るといことは、やはり農業の後継者等を考えてかなりの問題じゃないか。私は館山市が真剣になってやはりこの中央ダムの完成、一日も早く丸山ダムの水が館山市の田畑にうるおう。この現実をやはり実現させることが急務じゃないかというふうに思うわけでございますけれども、この状況はどうなのか。そうして、今日までこのように遅延してきたところの中央ダムの経過はどうであったのか。その点についてひとつお伺いしたいわけでございます。

二番目には、王子不動産と農協の事件というようなことが先般のサンケイ新聞に報道されたわけでございます。その経過につきましては農協等から農家組合に対してその内容の釈明等があったわけでございますけれども、しかしこれは土地開発にからむところのある食い違いによって起きてきた現象じゃないかというふうに思います。現実的には相当高額な負債関係の中をもって今日農協の幹部の人たち、そして農協の組合員の中については何か割り切れない。そういうものがあるように思います。これはだれが

よくてだれがわるいという問題じゃなくて、こうしたところの問題が起きたわけでございまして、この結末についてはどうなるかについてはまだわかりません。新聞報道と現実の農協内におきますところの動揺というものがどういう実態であるかはわかりませんけれども、しかしながら、土地開発についての問題から発生していることは事実でございます。

そういう面について、市の開発政策についてはもう少し慎重を期さなければならぬ面があるのじゃないか。そういう面については市としても開発対策について同様なあいまいさ、手抜きがあったのではないかとこの土地指導の問題について、今後この緑と自然の房総、館山を守る意味から開発対策についての一つの方策、今までに明らかにすることのできないいろいろの問題点もあるかと思しますので、それらの点についてお伺いしたいわけでございます。

さらに、リンク、ドジョウ、コイの養殖等一つの事業として入れたわけでございます。これらの状況についてはどうなのか。こうした一つの産業政策、今日こうした農家の中においてこういう小さなことも一つの光明であるかとは思いますが、ございますけれども、これらの見直し等についてはどうなのか。率直な御意見を伺わしていただきたいわけでございます。

五番目に、公共用地の取得についてでございます。田中内閣の列島改造論を契機にいたしまして、日本経済は物価高と土地開発というようなことがこの二、三年の経済の主流であったわけでございます。その点についてはいい面もあったろうし、しかしな

から、それによって多くこうむった被害、ひずみというものもあるわけでございます。そのひずみがどういう形で出てきておるかということが、われわれ市民にとって大きな問題であるわけでございます。それと一致するわけではございませんけれども、土地問題というものは、今日の日本経済の中でもって大きな課題でございします。

二中用地の取得、一中用地の取得さらには上野原の館山高校用地の取得、藤原運動場の取得、水族館前の道路の取得等についていろいろの条件があるのかないのか。この点については明らかにされない問題もあります。明らかにされない問題があるにしてもたとえば、二中の取得用地については館山市が供託して、まだその地主があつた館山市が支払ったところの土地代金を収納してないということが現実にあるわけでございます。これはなんかそういう契約上の問題、表向きに契約についてはりっぱな契約であり、議会においてもあの問題については私は何らさすことはないのではありませんが、それがなぜ金の授受の段階において受け取りができなかったのか、これについて俗にいうところの裏契約とか、裏条件そういうものが若干あるのか、ないのか。この点について全く白紙なのかどうか。やはり市長さんやめられるというようにのことを言ってるわけでございますので、その点については非常にしつこいようでございますけれども、この点については明らかにしておいたほうがいいんじゃないかというふうに思うわけでございまして、その点についてお伺いしたいわけでございます。

さらに、ミナミボールの問題でございますけれども、このミナミボールについては経営が不振で転売しなければならぬとか、

売りに出ておるといふうわさを聞いております。前の成田屋に売ったときには転売をしないといふようなことがあって、さらにミナミボールへの転売問題があるわけでございますけれども、今回またミナミボールが云々というような問題が出ておりますし、鳥久の用地の転売の問題についてもなんかそういったところの条件があるのか、ないのか。この点についてはありましたら、お伺いしたいと思います。

六番目に、商店街の再開発の問題でございます。本間市長におかれましては、商工会議所の会頭等もなされて、館山市の商店街の再開発については非常なる抱負と構想をもっておられたわけでございます。

特に、房総縦断道の問題については、非常に大きな館山市の開発ということでもって、前から期成会をつくり負担金等もわずかであったけれども、納めてきておるわけでありまして。今年も予算が計上されておりますけれども、その見通しはどうなのか。それからまた、房総縦断道に対するところの館山の受け入れの道路の問題がどのようになされていくかとしておるのか。それらについてお伺いしたいわけでございます。

同じように、館山駅の改築促進状況においても、ここ数年来補助金も出されておりますし、いろいろ問題があるわけでございます。この点について、どの程度進んでおるのか。非常に市民も期待しておりますので、その経過についてお伺いしたいわけでございます。

さらに、商店街の不燃化構想については市長さんも何度かこの壇上から、不燃化を進めていかなければならぬということをお

っしゃってあったわけでございますけれども、今日不燃化の商店街の改造というものは進んでないように見受けられるわけでございますけれども、これはどういう状況なのか。今後この不燃化構想というものはどういう形で実現していかなければならぬのか、そういう点について御意見がございましたら、また、そういう構想いろいろとこういう問題について日夜一番考えたのは市長さん自身じゃないかと思うわけでございますので、それら考えておるところの経過について披露していただければ非常に幸いじゃないかというふうに思います。

七番目の最後の問題になるわけでございますけれども、財政の現状でございます。今日、館山市が一番大きな問題としてかかえておるのは財政問題だと思います。金がないからやりたいこともできないということが率直に言って日本全国どこの市におきますところの、地方自治体におきますところの現実じゃないかと思えます。

一中の売却の問題については先ほど論議がございましたわけでございますが、これについては省略いたします。職員のベースアップも高額のものが予想されております。さらには、汲み取りの公社移管に対する財政支出、そしてこれに関係しまして、総需要抑制という問題が非常にきびしく襲いかかっております。つい二三日前も大蔵大臣がさらにこれを強めていくんだということを言っておりますが、それに対する。予算執行に対する影響はどうなのか、この点について率直にお伺いしたいと思います。

さらに、市の起債、債務負担、開発公社の借入金等の残高がどのような額になっておるのか。この時点でもって、やはり帳じり

の、さいふの中だけはひとつ明らかにしておかれることが現時点において非常に賢明なことだというふうに思うわけでございます。以上をもちまして、通告を終らせていただきます。

(市長本問 談君登壇)

○市長(本問 談君) 辻田議員さんの御質問に対しましてお答えをいたしたいと存じます。

ごみ及び汲み取りの処理をどう考えているか。こういうような御質問のようでございますが、御案内のように、ごみもほとんどいっぱいの状態、それから汲み取り場も満杯というような状況にあることは御承知のとおりでございます。この問題は市民にとっては一日もゆるがせにできない重要な問題であることはよく承知しておるわけでございますが、汲み取りにつきましてはいろいろ問題点もございましたが、皆さま方の御理解によりまして環境保全公社をつくって九月一日から運営にかかっておるわけでございますが、ごみにつきましては、今、一〇トンだけを補給するような施設があるわけです。この施設を今議会に補正としてお願いをするわけでございますが、大体ごみ焼却炉の寿命というものはせいぜい五年程度だと伺っておるわけでございますが、ところで、あそこのごみ焼却場を増設するについて、またつくらなくても近辺の住民からけむりが非常に公害になる。あれを五年以内に取ってもらいたい。こういう要望が議会にも出ておると思えますが、私のところにもきておりますが、これはやはり住民に迷惑をかけることは、今日公害問題を大きく考えなければならぬときにいつまであそこでやっておくわけにはいかないと思ひまして、む

こうさんの言うのは五年以内にどうか移転してもらいたいという
ような要望でございますので、私どもとしてはやっぱり地元の方
々に被害を及ぼさないように、五年以内に適当なところをみつ
けたい。そうして移転したいと、こう考えておりますが、今度一〇
トンを増設することになっておるんですが、一〇トンやっても寿
命は四、五年しかないらしいですが、結局四、五年の間にはあの
施設を全面的にやりなおさなければならぬという時代になるわけ
でございますので、ですから、五年以内にいずれか住民に被害の
及ぼさない地点をみつけて新しく、これはたいへんな事業ですけ
れども、やらなくてはいけないと考えておりまして、決して現在
のままで満足しておりません。また、現在のままでは住民にも
やはり御迷惑をかけてあるかと思いますが、ごみのほうは八割程
度はあそこで処理して、二割程度は埋め立て、西長田の山を借り
てあそこで埋め立てしておるような状況であるわけでございま
し、なかなかごみの処理というのは最近におけるごみの状態から
見ますと容易じゃないわけですね。

いずれにしても、これはもう当然市の責任においてやらな
くちやならぬことでございますから、皆さま方の御指導を得て、
時代に即応したものを急速につくることに向かつていかなくちや
ならぬと存するわけでございます。

次に、中学統合と校舎改築ということで、三中案の見通しです
かということ存じますが、三中につきましては、私は関係地域
住民のまず了解を得て、そしてやるべきだ。私の考え方としては、
当初は真倉の小高い山のあるあの付近を整地してやったらいいじ
やないかと考えておったんですが、その前に、私がことばが足ら

なかったですが、押本教育長に頼んだんですが、房南中学をつ
くるときに、せつかりっぱなものをつくるんだから、西岬方面の
生徒もあっちに収容して、神余もあっちによこしたらどうかと言
ったんですが、押本教育長は父兄にはかったらしいけれども、ど
んなことが、ちっともはかどらないで今のようになったと
思うわけです。

その後、どうしても三中が必要だから、まず父兄の理解を求め
てもらいたいと要望してあるんですが、なかなか進みません。そ
の後、高木教育長に対してもお願いしたんですが、これも、なか
かこれは取りつきにくいですね。いろいろの話も出るし、なか
かやりづらいのが現実だと思います。しかしながら、だれかがや
ばりやらなければならぬですね。早く言えば、夜なべにでも出
行って住民を集めてこういうふうにするからどうかと、だんだ
ん理解を求めていくということであるから、なかなか半年や一年
ではできないと思いますが、私は安田教育長が就任したとき、三
中をひとつ心配していただきたいということをまずお願いしたん
ですが、なかなか教育委員会もいそがしい仕事ですから容易じゃ
ないところにもってきて、この間、県のほうに書類を出すときに
私としては教育長から三中の跡地にどうかという話がございま
したから、そうだね、学校の跡だから学校がいいじゃないかとい
う程度であつたんですが、いずれにしても、館高の跡に三中をや
るということに決定したわけでもございません。

できれば私は、真倉の老人ホームの奥のほうですか、あのへん
がいいじゃないかと考えておりますが、これはいつに父兄の方
々と先生方と教育委員会の方々が話し合いをとげて位置を決定す

ることが私は一番無難だろうと思いますが、これにつきましてはやはりなかなか努力がいるし、説得力もいるし、また、いいところでないかと賛成できないじゃないかと思っておりますが、館高の跡を三年先に三中に使うことにすれば、これは一番簡単ではないと思いますけれども、いろいろ考えてみると、私は教育家じゃないからよくわかりませんが、今後の課題としてやっぱり真倉方面と両方合わせて検討していくべきじゃないかと考えておるわけでございます。

その次に、小学校の改築問題ですが、辻田さんのおっしゃる通りに、やっぱり中学校と並行して小学校をやらずにちやならないし、現在のところは神戸小学校、北条小学校、豊房小学校等ですね。約三分の二ぐらいの生徒が収容されて、三分の一ぐらいがまだ小学校が余っているじゃないかと思いますが、これはやはり老朽度に応じて、やはりすべてに優先して教育施設というものは整えていかなければならぬと考えておりますので、この方法としてはなるべく防衛庁の助成を得られれば、できればいいと思いますが、今のところは那古小学校、西岬の東小学校ですか等は防音校舎としていくんじゃないかと思いますが、神余小学校とか、順次やると思いますが、その順位は私にはここでは説明できませんし教育委員会のほうでやはりいろいろ調べがあるそうですから、それに基づいて小学校も中学と並行して校舎を直していかなくちゃならぬと考えておるわけでございます。

次に、道路舗装と改良舗装完了の結果と、今後の改良というふうなことでございますが、道路の舗装につきましては皆さま方の御指導、御協力によりまして、二、四十八年度をもちまして三メー

トル以上の市道の拡幅、舗装をやりとげたわけでございますが、今後はやはり逐次舗装をしていこうと、市道に漏れたところは次の次にやろうと。

私はこう考えますよ。道路というものは、これは産業の上から、子供の通学の上からも、老人の面からも、あらゆる面の、観光からしても基礎であるわけでございますので、道路にうんと力を入れてやるのが住民福祉に一番大きな貢献をするとは私は考えておるわけでございますので、今後も今言ったように市道で舗装に漏れたところから、またそれに漏れたところと、逐次なるべく予算をそこに集中して要望にこたえていくことが館山市民のしあわせ、福祉ということにつながると存じます。

それから、農業の振興について、中央ダムの経過でございますが、これは十年計画で始めたんですけれども、なんか地元の土地所有者の売買が遅れたり、道路を、県道とか農道とかの接点のごたごたなんかあって、また国や県の助成の関係なんかでずいぶん遅れたようで、ただいま辻田さんのお話のとおりで、私もどうしても債務負担行為をしてまでやったのに、どうしてこんなに遅くなるかと、私も実にその点については残念に思っておりますが、このことについては石井農産課長からくわしく御答弁を申し上げたいと存じます。

それから次は、農協事件は市に手抜きはないか。農協事件については市としては手抜きはないんですが、いろいろごたごたしたことを聞いて、私は農協の合併に導いたひとりでございますので、農協の伸展につきましては人一倍に関心を持っておるわけでございまして、このあいだいろいろ役員会でこうだ、ああだと

聞きましたから、石井農産課長を三、四回やって、いろいろむこの様子を伺ったわけでございますが、私はずっと前から言ってるんですが、農協というものは昔はこうですよ。私も村長やった当時、村の人の金を集めて千葉のほうによけい送ればほめられるし、そればかりやってたんですよ。豊房でもって二百万です。たつたそれを農協から貸せといったら貸さない。何のために農協があるか村の農協で学校を建てるために貸さない。けしからぬじゃないかと言ったことがありますけれども、今はそうでないでしょうけれども、農協というものは農民の金を吸収して千葉のほうにどんどん送って、あっちのほうで成績を上げればほめられるし、成績がよくなる。資金の運営がよくなるかどうか知りませんけれども、私は絶対それは反対です。千葉からむしろ持ってきて農家に貸せというんです。どんどんつぶれても農家は一銭も取れないことはないというんです。田畑があるんだから。金を出さずにいて農家の振興なんて、なんだというんです。農家に資金を回わして、農家がつぶれたってけっこうだというんです。農協は農家のためにつぶれたらけっこうじゃないか。農家は金を融資すればどんどんいろいろ発展できるわけですよ。

いつか、私は二、三年前でしたか、あるところに行って牛を買うべと約束して、いついっかといって農協に申し込んだらいいと言って借りに行ったら、印鑑証明を持ってこい。登記をどうこうと言って金をやらないから、博労がその牛をよそに持っていった。それもしかないでしょう。

もう少し、農協をやる人が農民というものの立場を考えて、先に貸してもいいじゃないですか。百姓は逃げるわけではない。地

所があるんですから、いろいろありますが、私の主張としてはちょっと脱線し過ぎかもしれませんよ。とにかく農民のためにどんな金を貸せというんですよ。足らなければ千葉からあべこべに持ってこい。千葉なんかに出すじゃないというんです。土地のために使うなら幾ら使ってもいい。そうすれば、農協はだまっても振興する。金を貸しもしないで農家の振興をはかるういっでもできるわけがない。牛を一匹買うにしても何十万でしょう。何をやるにしても金を貸すところは農家とすれば農協ですよ。

ちょっと、わる口になりますけれども、農協についてはやはり農産課長が主管課長だから、行って常に連絡をとっておりますけれども、議長さんが理事さんで申しわけないけれども、農協は農民だけに金を貸すのが本当ですよ。それを員外貸し付けを相当多く行なっておるといのが現状でしょうね。そんな人のわる口を言っではいけないけれども、私は市長としておる以上は、やはり農協にしても、水産組合にしても監督権はありませんけれども、振興に助成をしたり、振興をはかることに関心を持っていなければ相ならぬと思ってるわけで、そういうことを言うわけでございまして、別に農協事件に対して無関心であつたわけではございません。

それから、私が奨励しましたミンク、ドジョウ、コイ等の現状は、私はおおむね良好な結果を生んでおると思いますが、このくわしいことにつきましては、これも石井農産課長からくわしくあとで説明いたさせますので、御了承をお願いたいと存じます。

次に、公共用地の取得はということでございますが、そのうち二中、その他の用地取得は条件がついてるかということですが

二中の用地は、あれは全部で五名ぐらいですか地主は。それで、中央あたりに四名ぐらいの地主が、大きいのは中村さんが大きいわけです。中央の四名のうち、二名は全部払った。あとの二名は三カ年賦で払う。中村さんの地所も契約どおり坪三万円でお願ひしたわけですが、今、なんかつごうか、なんか知りませんが、供託してあるというふうなことで、これは話し合いの供託ということですかね。

以前にも、海岸道路を造船所の道路を取ったときも一時供託しておいたこともあるそうですが、これは契約に基づいて受け取ってもらわないから、中に入る人があって相談ずくで供託してあるということであって、そのほか何らかこれについては約束はございません。

ミナミポール、鳥久の地所に対する条件があったか、ないか。これはミナミポールというのは、成田のようかん屋があそこ自動車給油所をつくるからということで、成田のようかん屋ならだいじょうぶだということで売ったところが、ようかん屋は成田のほうになんか四、五億の施設をするから、ミナミポールのほうならすぐに施設をするから、だいじょうぶだから、責任を負うからやってくれ。こういうことであつたわけです。本当は十年間は動かさないことになっているけれども、ミナミポールというのはやはり観光施設ですから、すぐにやるというなら、あんたが保証するならよろしいと、そのかわりもうけたらだめだよ。利息だけは加えるという、それならよからうということで業者から他に転売をしません。転貸もしませんという誓約書を市が取っておるわけでございますので、これをむやみに他に転売等は認めない

わけでございます。

それから、商店街の開発関係について、房総縦断道路の見通しですか、これは辻田さん、結局千葉から君津を通して白浜に通ずることを言うんじゃないですか。これは私も今から何年前かな。五、六年前でしようね。なんかその役員になっておるんです。ところが、何回かやったけれども、なんだか二、三年はそのままになって今は計画が成り立っておらない。なんだかわからないけれども、ちょっと今のような地価の情勢と金融情勢では、すぐにこれが実現するということとはできないじゃないかと思いますが、今のところは一応中止ですか、休憩ですかというふうな情勢にあると私は思ひまして、まことに残念に思っております。

皆さん方に対しても一二七号のバイパス線と縦断道路ができて非常によくなるということを申し上げておいて、そういう結果でまことに私も責任を感じますけれども、私は会長でも、副会長でもなんでもない。ただ、役員の一人としておるわけで、それでもやはり皆さま方に申し上げたことに対しては、私は本当に責任を感じておる次第でございます。

それから、館山駅の改築促進状況でございますが、これは私も考えておって、私は四、五年前から運動しておったんですが、木更津の駅ができる当時運動したんですが、木更津駅では大体半分以上七割ぐらいの金をつくるからということであれは始まつたらいいんですが、ほうほう運動したんですが、七割では館山市ではできないということで一応断念したんですが、いつでしたか、今から三月、四月前ですか、千葉管理部に行っている頼むし、東京支社ですか、今、関東なんとかという、それと本社も行って

よく頼んだですが、要は、やっぱり地元で金を出してくれというんです。ずいぶん勝手ですね、鉄道は。とにかく金といっても、百万や二百万じゃないんですよ。何千万という金を出してくれ。こういう要求であるから、これに対しては商店会の方々も私と別に運動されておって、金もある程度つくるといふ話もしておりますけれども、それはつくってみないことにはわからないし、とにかく金を出さなければ実現が可能じゃないと私は思っておりますが、木更津においても三千万か幾らか、市で出したそうですが、館山市の場合はそういう金をむやみに出すわけにいかないし、また、一面考えますと、鉄道にも行って話しましたけれども、あれは五十年以上たっているわけですよ。耐用年数を経過しております。ですから、自然でもつくらなければならぬじゃないかという点もあるわけです。

商工会議所はいくらか助成を出してやっておりますが、私は商工会議所とは別に行つて話をしたんですが、商工会議所の方も督促してひとつ実現をはかつて、館山駅を改築すると同時に、やはり近代の商店街をやらなければならぬ。こう思つておるわけでございます。

財政の状況ですが、これは数字的になりますし、またくわしい説明もいると思いますので、これは財政課長にくわしく述べさせていただきますので、これで御了承をいただきたいと存ずるわけでございますが、辻田さん。よろしくございますか。私にはくわしいことを説明されてもちょっと困難なところがございますので、その点ひとつ御了承おきを願いたいと思います。

また、足りない点は課長やなんかから、再質問でけつこうでござ

いますから、どうぞ、やってください。

どうも、失礼しました。

〇議長（吉田勇治郎君） 補足説明を。

〇農産課長（石井 謙君） 農業の振興の中の中央ダムの遅延はどうかということにつきまして補足を申し上げたいと思います。

この理由といたしまして、四つばかりありますが、その中のまず一つとしまして、当初ダムの予定地域内の住民の反対が非常に強くて承諾に長期の期間がかかったということがまず一つでござい

ます。二点目といたしまして、ダムの予定地内にございます県道あるいは農林道、そういうようなつけかえ工事の計画が予想以上に難航でございまして、この期間が計画どおりにいかなかったということでございます。

三つ目といたしまして、用水路工事を施行するにあたりまして地あまの地質が非常にわるいということで工事を途中で変更したわけでございますが、それは当初は、山の場合はトンネルだけを掘つて水を流すという計画であつたわけでございますが、地あまがわるいためにトンネルを掘つたのちに、その中にコンクリでもって巻き立てをしなければならぬというような余分な仕事と経費がかかった。こういうようなことがあるわけでございます。

四つ目としましては、この事業の事業費は国が五〇%補助するわけでございますが、一時的に大きな助成が国から困難である。こういうようなことが理由でござい

ます。なお、この完成年度につきましては、現時点で県で考えておりますのは、五十一年には完成をします。こういうことをはっきり

申し、おるわけでございます。

次に、ミンク、ドジョウ、コイの養殖事業の現況につきまして申し上げます。

まず、ミンクの飼育の状況でございますが、本事業は林産物、特に薪炭林の需要の減少によりまして、林業農家の所得の低下を補うべく、毛皮ブームとともに発展してまいりましたミンクを試験飼育いたしまして、当地方で可能である場合はこれを奨励しようということで始めたわけでございますが、このために四十六年の十一月月上旬に牧場の一角にミンク舎三棟を新築いたし、種ミンクを川越の日光ミンクより雄三十、雌七十、計百頭を導入いたしましたわけでございます。

翌年の四月から五月の下旬にかけてまして百七十七頭に分べんをいたしましたわけでございますが、最初の出産率は平均二・八頭でございまして、以後逐次増殖をいたしまして、現在親、子ミンクを合わせまして七百十三頭を飼育いたしておる現況でございます。職員の飼育、管理等の技術もだんだんと向上いたしまして、今年の出産率は三・七頭に上昇しておる現況でございます。

初年度の分のミンクにつきましては、四十七年度十二月に種ミンクといたしまして百十頭を残しまして、残りを全部加工用として発注いたしましたわけでございますが、これはおもに婦人用の肩かけとか、あるいはえり巻き、こういうようなものを製品化いたしまして、昨年の十二月一般に売却いたして好評を得たわけでございます。

飼育につきましては、えさの確保と保管が問題点の一つでございますが、それは北海道よりこのえさを取り寄せまして冷凍業者

にこれを預けて置くわけでございます。一週間分程度のものを受領してまいりまして、冷蔵庫の中に保有して毎日これを給与しておるのが今までの状況であつたわけでございますが、最近、完配これは完全配合飼料でございますが、これを使用するようになりまして、本市も本年から子ミンクに対しまして三分の二完配を試験飼育しておるわけでございます。これが成功すれば、えさの給与等が簡単になりました。一般家庭におきまして飼育が可能であるということで大いに期待しておるようなわけでございます。

次に、ドジョウの養殖事業の現況でございますが、これは四十五年に米の生産調整の一環といたしましてドジョウ養殖組合が発足いたしました。当時は組合員が三十一名、養殖池につきまして一二〇アールで池の整備とか、あるいは稚魚の共同購入あるいは共同出荷というを行なっておたわけでございますが、不幸にしまして四十六年、四十七年と連続しまして大雨に見舞われたわけでございます。そのために、施設の破損とか、あるいは稚魚の逃亡、こういうようなものがございまして、大きく被害を受けまして、こういうふうな関係もありまして現在組合員が約半数に減りました。しかし、現組合員十二名は毎年池の整備等を行ないまして、今まで習得いたしました技術を生かして、本年も佐倉市より稚魚の共同購入をいたしまして、養殖の定着化をめざしておる現況でございます。

また、出荷状況につきましては、一定期日に数量がまとまらないうというよりなことで、おもに市内並びに近隣町村にまいりまして、組合で協定価格を定めまして個人売りをいたしておるような現況でございます。

最後に、コイの養殖事業でございますが、市内に数多くあるため池を利用してコイの養殖を奨励しまして、動物性たん白質の補給源と、釣り堀によるレクリエーション施設の増強によりまして収益を得る目的で昨年の十月下旬に手賀沼漁協から稚魚を五二〇キロ購入したわけでありまして、大きさにしましては五センチから約一〇センチ程度のものを購入しまして、市内の十五カ所のせきに管理者と契約のもとに放流したわけでございますが、そのうち食用として現在養殖しておりますものが十二カ所ございます。二カ所が釣り堀も兼ねて行なっております現況でございます。

現時点におきましては、大きいもので約三〇センチ、小さいものでは一五センチ程度になっておるような現況でございます。食用としての大きさは大体専門家に聞きますと、四〇センチ乃至四五センチが適当と聞いておりますので、これらと有利な出荷時期あるいはため池の利用計画、こういうようなもの等、いろいろ検討いたしましたして、今後共同出荷をいたしたいというふうに考えておるわけでございます。

○財政課長（長谷川広治君）　かわって御説明を申し上げます。

今年度の財政見通しというような関係でございますが、現在のところ、給与改訂につきましては国の法律が固まっておりますので、あくまでも概算の推計でございますが、約職員等の改訂費が三億三千五百万円程度というふうに概算でございますが、推計をいたしております。

それから、環境保全公社に対する財政支出というような関係でございますが、とりあえず公社設立に際しましては予備費から百万円を支払い、基本財産として運用をしていくということで発足

をみておるわけでございますが、初年度でございますので、これも財政的な内容が細かく把握できません。したがしまして、現在の考え方といたしましては、年度の終りまでの事業内容の状況あるいは収入状況等を確かめながら予算の措置を考慮していきたいというように程度に考えております。

なお、こういうものに関連をしまして、総需要抑制に関する予算への影響でございますが、大きなものとしたしましては、地方交付税におきまして現在時点で約八千万程度の減額が予想をされております。なお、歳入の見通しといたしましては、市税におきまして土地保有税を中心に約一億八千万から九千万程度の増収ということが見込まれております。それからなお、総需要抑制によりまして二、三の事業に対して繰り延べあるいは事業の縮小があるやもわかりませんが、これもまだ内定通知をいただいておりますので、はっきりわかりませんが、若干起こるのではなからうかというふうに考えております。

したがしまして、予算全体といたしまして、歳入、歳出を考えていきますと、約現在の時点で九千万円から一億円程度の財源不足が見込まれるのではないかと。これは四月の総務委員会が開かれましたときに、財政状況の御報告を申しましたときに約一億四千万程度と御報告申し上げたんですが、その後、市税等の伸びが若干ございまして、現在の時点では約一億程度の財源不足が見込まれる。したがしまして、後半きまりますいろいろな財源的なものを見比べながら、ある程度既定予算に対しては減額補正をせざるを得ないのではないだろうかというふうに考えております。ただ、今財源的なものがほとんど流動的な数字でございますので、固

まっておる数字というものがあまりございせんて、財源の確定を見ながら減額をすべき額あるいは減額をする事業等を考えていきたい。こういうふうに存じておりますが、できるだけ消費的な支出の削減というようなことを優先的に徐々に減額補正を考えていきたいというふうに考えております。

それから、市の起債等の額でございしますが、これはいずれも九月一日現在の数字でございしますが、起債の残高といたしまして九億五千六十八万円でございます。

それから、債務負担でございしますが、この債務負担のうちの本当の債務負担これが七億五千六百十八万七千円、それから債務補償をいたしてございます。このうち大きなものは開発公社に対する十六億四千万が大きなものでございしますが、債務補償の総額として二十一億二千二百五十八万二千円でございます。

それから、開発公社の借入金残高でございしますが、大きなものといましては道路の舗装関係費四億八千八百四十七万五千円、それから新しい館高用地の取得関係のものでございしますが、三億五千万円、それから谷藤原用地の買収費関係が一億五千八百万円、それから旧北条小学校用地の買収費が七千六百七十七万五千円、それから新しい一中用地の買収費七千四百四十四万四千円、それから旧安房支庁の用地の買収五千五百四十万円、それに運転資金九千万円、ほかに一、二細かい金額がございしますが、それを合わせてまして総額の数字が十三億一千四百四十四万四千円が現在開発公社の借入金総額でございます。

○九番（辻田 実君） 四点について再質問をいたしたいと思えます。

まず第一点は、汲み取りの問題でございますけれども、この件につきましては先般の全員協議会等において、多少の住民に迷惑がかかるかわからないけれども、大筋において早い機会にこの問題は解消できるんだ。こういうことであったわけでございましてその点に対するところの意見の相違は別にいたしまして、一応ああいう形で話が整ったわけでございしますので、今後この汲み取りの問題についてできるだけ最小限に食い止めていかなければならないというふうに思うわけでございます。

私は、公社移管前後にいろいろ発言したことの関係もあったのかもわかりませんが、困るといふ苦情だけしかこないんです。非には反対じゃなくて、困るといふ苦情だけしかこないんです。非常によくなったということとは全然なくて、それがちょっと多いような感じがいたしまして、それらを総合しますと、当初市のほうで考えておられた多少の迷惑はかかるけれどもという想定と、今日ようやく半月を過ぎた状況の中において、その見通しというんですか、そういうものはどうなのか。かなり当初よりきびしくなってきたおるのか。それとも当初予想したとおりで、これは説明のあったとおり順調に早速軌道に返せるのか。返せるとすればどの程度の問題なのか。

特に、夫婦ともかせぎの家の場合などにはさほど問題はないように思われますが、子供が三、四人いて中学生ぐらいになったというふうなことで五人、六人の世帯になりますと、月のうち二回取りにきておる家では悲鳴をあげておるようになります。

私の考えでいきますと、夫婦ともかせぎの人の場合には外に行って始末する場合があるから、だんだん累積してある一定期間に

なりますと、それらが重なった場合には予想以上の混乱が出てくるんじゃないかという心配があるわけなんですけれども、そうした点について現段階ではどのような把握をされておるのか。見通しについて、ひとつお伺いしたい。

それについて、打つ手、市民に対しての協力をお願いする面、さらには議員として協力しなければならぬような事項があるのかどうか。そういう点について、いさ少しくわしく率直にそのお話しをいただきたい。これは毎日のことですから、私だけでなくて、まだほかにもそういうことでもって汲み取りについて、うちはどうしてくれるんだということを言ってる人もかなりあるんじゃないか。私も二、三そういうかなり困ったよということを聞いておりますので、そういうことも含んでお答えいただきたい。

第二番目に、市長さんにお尋ねしますけれども、これは非常にしつこい質問になるわけでございますけれども、先ほど二中の用地の取得をめぐる中に入った人との話し合いで一応供託という形で取られておるといふことでございますので、非常にその点についてはけっこうなことだというふうに思います。

そこで、私は細かくは聞きませんけれども、中に入った方という方は、市長さんが非常に信頼のおける方であるのか。それとも事務的に中に入っただったのでおまかせしたという方なのか。そのへんの質問の方法がちょっとわるいようですけれども、そのへんはひとつほかの方法で答えるあれがありましたら、たぶん私は信頼のおける方の中に入ってもらったと思いますけれども、それが事務的であるのか、非常に個人的にも親しくし、信頼しておるといふ方であるのか。その点についてお伺いしたい。

市長さんが信頼される方なら私は間違いないと思いますけれども、形式的な方だということになりますと、今後どういうことになるかと思ひまして、その点についてはのちほど簡単でけっこうですから、お答えをいただきたい。

三番目につきましては、財政課長の説明の中におきまして、総需要の抑制に伴ひまして、公共事業の繰り延べということがかなり新聞紙上出ております。田中総理も相当きつい公共事業の繰り延べをやって物価を抑制するんだということで大蔵大臣と力を合わせてやっておる様子が毎日新聞に出ておるわけでございますけれども、そういう中において、館山における公共事業の繰り延べは二、三だということで、そう大きな影響はないように受け取られるわけでございますけれども、一点だけ防音校舎についてかなり館山市はウェイトがかかっておるわけでございますので、防音校舎に対する繰り延べ、こういう問題は出てきておるのか。そういうような感触があるのか、どうなのか。この状況について非常に大きい予算だけに市民の期待が大きいだけにこの点についての状況をちょっと説明していただきたい。これはなかなか一方的には判断できないと思ひますけれども、抽象でもけっこうでございますので、ある程度目安だけでも伺っておきたいと思ひますのでこの点についてお伺いしたいと思います。

それからもう一つ、財政問題についてでございますが、総需要の抑制等、その他あるけれども、数字的には一億円前後のものであるという見通しが立てられておるといふことでございますから、この点につきましては私は非常にけっこうなことじゃないか、今日の情勢の中で三十億からの予算を組む中において一億程度の不

十一 分 加

足というんですか、がされるということについては相当の努力のたまものということで歓迎するところでございまして、敬意を表したいと思えます。

そこで、この収支の中に当初予算に計上されたところの一中の用地の買却については委員長報告等の経過もあったわけでございますけれども、当初予算額どおりに売却されて収入があった場合にこういうことなのか。それとも、委員長報告の中についてはできるだけ売ることとは、売却については慎重を期しながら金のやりくりをしていただく中で判断していただきたいという旨の報告がなされておったわけでございますが、その一億云々という中においては一中の売却の見込みは含まれておるのか、おらないのか、それだけでございます。その点において、含まれておるとすればどの程度含まれておるのか、つけ加えて御答弁願いたいと思えます。

以上、四点について再質問いたしたいと思えますので。

○衛生課長（館石勘治君）　まず第一点の汲み取りの現況でございしますが、当初移管されましたときに、多少御迷惑をかけるんじゃないかというような市民にお話しは申し上げたのは事実でございます。これは私も、実ははじめての業務でございますので、そういう不安等もあったので、そういうことは、発言を申し上げたのでございますが、入ってまいりました作業員は山中さんのほうで熟練された作業員が大部分入ってまいりましたので、それらの方々のやっておりました計画に基づきまして発足したわけでございまして、現在、当初思った多少の御迷惑ということばに該当するような電話等もかかってまいりますし、これらの点につきまし

ては、先週の日曜日、連休がございましたので、一日連休を返上してやっていただけないかということを作業員にお話し申し上げたんでございますが、ちょうど作業員も公社職員となった関係もあって、非常に緊張しながら作業をやっておるので、精神的にも非常にまいっておるので、今回の連休だけは休ませてもらいたいの。二十三日の連休は必ず私たちは実施するから、こういうお約束までいただいておりますので、ほどこく当初の計画にもどる。こういうふうに私は考えているわけでございます。

なお、職員が現在藤原処理場の職員等が応援に出ておりますしそういう応援体制の職員でなれないというようなところもありまして、作業の能率がそういう面から多少能率的に遅れているのじゃないか。これも考えております。これらの点もあとすみやかに作業になれるような方向等を取りますれば、ほどこくもとにもどってまいります。このように考えているわけでございます。

なお、議員の方々あるいはほかの市民の方々、どのような御協力をいただけるかというようなことの点につきましては、まだ発足当時でございますので、徐々にそういう問題点と、協力点等を煮詰めましてお願いにあがる。こういうふうな考え方を持っておるわけでございます。以上でございます。

○市長（本間 譲君）　ただいま、辻田議員さんの御質問の中に、二中の土地の売買について、その中に入った人を知っているかどうかというようなことのようにですが、私は二中の売買についての交遊には絶対たずさわっておりません。また、供託云々のときの人とも会っていませんけれども、その人は知っております。私も懸念にしておりますが、あらかじめこうしう、ああしう

ということの話は絶対にしてございません。ですから、何らそこに裏取引とかなにかいうことは私においては存在しておりません。

価格の協定につきましては、教育委員会がまん中に五人かいる人の額と合わせてきめたから、それはけっこうでしょうということとがありますけれども、結局衝にはあたっておりませんけれども、坪三万円というのは妥当であるということで私も了承したわけでございます。

○教育委員会庶務課長（汐崎政光君） 国の総需要抑制策にからみ

まして、現在市が計画しております防音建築、防音校舎の改築それが遅れはしないか。こういった御質問であつたろうと思います。が、現在のところちょっとまだ不明でございますが、本年度予定しておりまして二中の継続工事、それから館山小学校の講堂の設計、これは実はきのうの夕方内定通知がきたということが千葉の出先機関から連絡がございました。なお、そのおり一中はどうなっているか聞いたわけでございますけれども、これは一次の発表であり、二次、三次そういったものがどのようになるか、現在のところちょっとわからないというふうなことがございますので、明日課長補佐をしまして、この内定の内容と、それから一中の状況ですね、そういったものを確かめたい。このように考えております。

○財政課長（長谷川広治君） 土地の売り払い代金として三億円が入ったものとみなしての計算方法でございます。

○九番（辻田 実君） おおむね了承というんですか、よく御説明がありましてわかりました。

もう一つ、し尿の問題については緊急の問題であるので、再度質問したいわけでございますけれども、ただいまの答弁の中におきますと、これらの問題についてはこう思うとか、ほどなく何とかなるんじゃないかということば、さらには徐々に改善の方向にむかうということでございますけれども、これは毎日というところでその日困れば、とにかくその家族は右往左往ヒステリーを起こさなければならないということ、そういう家も私一、二軒見えております。いっぱいになってこぼれてしまったので便所に行けないので困って公衆便所に行ったら、詰まって大さわぎした。こういう問題なんです。いいですか。それがほどなく何とかなる方向にいくだろうとか、徐々に改善されるということばでは、質問したわけではなくて、そこらへんを具体的な問題として、きょうの問題ですから、その点についてはどうなのか。そうして今現実にあることはどう把握されておるのか。かなりの人が電話でもって申し込んでもなかなかこないんだ。電話もいっぱいきておるのでおたくだけではないんだから、電話の先着順にやるからということとを聞いておるけれども、そういう点についてはどうなのか。電話の申し込みは相当あるのか。量はあるのか。どのぐらい今堆積しておるのか。電話の応待に出た方がおたくだけでないので、きょう、あしたというわけにはいかない。ずっと前にきておる方があるというようなことを言われておるということとありますけれども、実際そういう状況なのか。そういうことは一人、二人の問題という形では済まされない問題もあるわけですし、私がそれらを聞いてまいりますと、かなり広範囲で非常に容易ならぬなというところでございますので、その点についてはひとつ、実際には

どの程度の間でもって正常にもどるのか。ある程度そういう点について率直なところを言っていたきたい。そうでないと、私らしいかげんにもうだいじょうぶだよ。近いうちに正常にもどるから心配ないよというような形でもってその家庭に言っても、それがそうでなかったらたいへんなあれになって、そういうようなことがありまして私がそうだといいことでなくて、そういうことが一議員と市民という関係じゃなくて、議員と市民のその関係が、市政の信頼になり、信用という問題に結びつくから、私は個人的の問題のような形で質問していますけれども、そういう問題にからむという観点で、この問題については率直に言ってもらいたい。一週間なり、十日なりどうしても遅れるなら遅れるということでも私ども一週間遅れる。しょうがないからどうしようかという発想ができるけれども、今聞いておりますと、徐々に、ほどほど、云々ということであれば、何と答えていいかわからないので、この点びしっとしていただきたい。

ほかの点についてはおおむね今、きょうという問題じゃございませんので、了承しますので、この問題についてひとつ。

〇衛生課長（館石勘治君） 御心配の点ごもっともだと思います。確かに電話が入ってまいります。

私どもは当初、その電話の入ったことによって、それを中心に汲み取りをこちらのほうからというふうな電話があったからこりやってくれというような形でいっているのでございますが、実はそれをやったために、この自分たちの持っていた計画が非常にそごをきたしたというような部面も出てまいりました。

それで、そういう計画を自分たちが持っているんだから、電話

の部面はある程度余力をもって処理するというような形で、本来の計画を優先さしてやってもらいたいということとでやってみる現況でございます。

それで、電話の出てきたところを作業員からの報告によりますと、まだ八分どおり、七分どおりのし尿がまだ完全にあふれ出していないというような状況のものが出てまいったと、こんなに忙がしくやられるさなかに、そういう状況の電話では私のほうでは計画にそごをきたしておるといふような作業員の声もあったわけでございます。したがって、作業員のほうの計画を早く取り戻すようにただいま申し上げたとおりの状況で現在進めているわけでございます。

なお、自動車等が多少補修されたために、そのために修繕の日数等が一、二日、一、二台あったので、それらのものも遅れた原因かと、こう思っております。

なおかつ、勤務時間が大体山中さんのほうでは非常に時間に制約されないでやっておったというようなこと等がございましたので、私のほうも当初は市職員と同じように八時間でやっておりますけれども、計画になかなか追いつかないという状況が見受けられましたので、約一週間ばかり前から前後三十分ずつ延長してもらいたいというような形で現在行なっているわけでございます。

したがって、持っている計画をそのまま実行した場合は、早くもとに復すということが非常に大きなウェイトになってまいりますので、私たちはその方針を早く貫いて計画に戻していきたい。このように現在を考えているわけでございます。

いつ、それが計画に戻るかという御質問に対しては、いつ、いつということばはちょっと現在の段階ではいつまでという段階はちょっと申し上げにくいというのが実質でございますけれども、今月いっぱいにはもとに戻せると、このように私は考えております。

○九番（辻田 実君） 三点目の質問になるわけでございますけれども、ただいまの答弁でおおむね了承いたしましたと思います。

しかしながら、私もいろいろと調べてみると、本間さんが市長になって以来、二十七回目の通告質問したわけでございますけれども、その中においてかなり拾ってみると、その場限りのものも数多くあるわけです。そうして、答弁されたことが実行されない面もあったし、また私のほうにしても、これはだいたいようぶだなと思って石橋をたいて渡る意味から裏から押したり、表から押しているいろいろ質問して、だいたいようぶかなというふうに確認してもなかなかいいかない。

今回、市長さんやめられるということでございますから、これ以上質問してもなんでございますけれども、私も野党という立場から、とにかくいいことについては質問しませんでしたけれどもわるいこと、またちょっと疑念があるということについては相当質問したつもりでございます。

その総仕上げではございませんけれども、し尿の問題については私も信用します。今月いっぱいでももとに戻るということでございますから、しかしながら、これが戻るということがどうかというについては本当に私は今までのそういう経過からいって本当のところいうと、もう一、二回ぐらいいろんな角度から

確かめてみたいような気がしますけれども、時間もまいりましたし、やめますけれども、現在それでは大体電話等を申し込んで八分目、七分目云々という問題は別として、どのぐらいの計画収集の日程の遅れが出ておるのかどうか。その点について質問いたしたいと思います。

市長さんにおかれましては、長い間いろんな質疑があったわけでございます。これが通告質問としては最後になりそうでございますし、本間さんに対する質問ができなくてさびしいような気もしますけれども、ひとつからだに気をつけられて御精進されるようにお願いいたします。最後の質問にしたいと思います。

○衛生課長（館石勘治君） 総体的にいつて幾日ぐらいの遅れということはちょっと答弁がむずかしいんじゃないかと思われまして。というのは、個々に一人、一人が、作業員一人、一人が自分の受け持ち区域を回っておりまして、一人は一日か、二日遅れているというようなこと等もあるうと思いますし、あるところではあるいは十日ぐらい遅れているんじゃないかという、こういうようなことも作業員は言っているわけでございます。そういうような遅れている作業員にすぐ援助したらいんじゃないかといううようなことも考えられますけれども、援助したからといってすぐ取る先の便所が応援者にわかるかという、そうなかなか簡単にわからない。こういうところがあるわけでございますので、総体的に幾日というような、幾日遅れておるといふようなことはちょっと当を得ない回答になろうか。こう考えております。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、九番議員君の質問を終わります。
次、一八番議員安西益男君。

(一八番議員安西益男君登壇)

〇一八番(安西益男君) 私は、四点の問題について御質問申し上げるわけでございますが、いずれも現時点におきましては緊急課題となっております。こういう問題であると思ひますので、適切な御答弁をお願いしておきたいと思ひます。

まず第一点といたしましては、ごみ焼却場、し尿処理場及び終末処理場等の用地取得促進特別委員会の設置についてはどうかというところでございます。

ごみの焼却場並びにし尿処理場の用地の問題は、ここ数年来議会において論議され、かつまた住民の関心が非常に高まりつつありますということが現実であります。

現状を見ますに、一部の人のみで消極的に行動してあるというのでは、この緊急問題は解決でき得ません。長びけば長びくほど困難性を増してくるのは、だれ人たりとも容易に判断できるわけでありす。当面してあります重要問題でありますだけに理事者そしてまた議会が一体となつて解決に取り組む姿勢こそが地域住民に対する責務であると、このように考えておる次第であります。

なおまた、終末処理場用地につきましては、単に青写真だけではございおるといふふうに聞いております。また、見せていただいてもおりますがこれとても何らの具体性はないと判断するわけでございますが、この点はいかがなものでございましょうか。

政府の公共下水道第四次計画もその緊急性から一カ年繰り上げしまして、当然この国の第四次計画に組み入れられるものと思ひますが、終末処理場の用地はどう進めるお考えか、お聞かせ願

いたしたいと思います。

二点目といたしましては、と場の広域圏移管に関する問題でございます。この件につきましては、広域圏協議会にはかり検討して対処するというものでありましたが、具体的な検討がなされたのかどうか。現在のと場の性格からして統合は当然と思われすが、見通しについてお伺いしたいと思います。

三点目でございますが、防犯灯設置計画についてお尋ねしたいと思ひます。防犯灯増設の要望はこれまでも何回となく申し上げてまいりましたが、現在におきましては防犯上からも、交通事故防止、また観光面からしてもほどよい状況にあるのではないかと思ひます。人命の尊重さらに事故防止の上からも、増設に關しては抜本的計画を進めるべきであると痛感しておりますが、当局の方針についてお伺いする次第でございます。

四点目、河川の水質汚濁の防止対策についてであります。特にかに九川の汚染に關する防止策はどうなっておりますか、お尋ね申し上げます。

かに九川の汚染度はひどく、その汚染源等に対する処置、なおまた、滅菌装置等の設置のお考えがあるかどうか。この点お伺いたす次第でございます。

以上、四点の質問につきましては、細かく申し上げるまでもなく、十分御理解されておると思ひますので、適切な御答弁をお願い申し上げます。質問にかえします。

(市長本間 譲君)

〇市長(本間 譲君) 安西議員さんの御質問に対してお答え申し上げます。上げたいと存じます。

今、館山市で一番困難を感じ、しかもこれが住民にとってきわめて切実な問題であるわけでございますが、これはごみ、し尿処理場の問題でございますが、ただいま申し上げましたように、ごみ処理については地域からけむりの公害があって非常に住民が迷惑するから、五カ年以内に撤去してもらいたいというようなこともございますし、それからし尿についてもほとんどいっぱいぎりぎりというような線にきてようやくしのいでいるわけでございしますが、とにかくごみ処理場と、し尿処理場についてはここで急速に解決を要さなければならぬ差し迫った問題でございますが、また、五十年からですか、五十一年からですか、下水道の終末処理場そういう問題もございしますし、これは安西議員さんのおっしゃるように、私もだけではなかなか適地を見つけるわけにまいりませんので、議員の方々に何名かにお願いする。あるいは市民の方々何人かをお願いして委員会でも設置して本格的に場所を検討する要があると思ひまして、安西さんのお考えについてけっこうだと思ひまして、その方針でこの点は進めたいと考えておる次第でございます。

次のと畜場の広域圏に移行するということでございますが、と畜場は現在、館山市では相当赤字を出しておることは御承知のとおりでございますが、これについてこの前も安西さんからお話しがございましたが、いろいろ広域関係についても相談したんですが、今鴨川に私立のと畜場があるですね。この話し合いがなかなかうまくいかないで、これは鴨川の市長さんやなんかをお願いしてやっていこうとしておるわけですけれども、むこうから見ると遠くなるから、館山までくると、広域化した場合には、また位置

等についてもまたいろいろあると思ひますけれども、これについても考えて、広域化するようにしなければお互いに採算が取れない。こういう面があると存じます。

それから、防犯灯の増設の件でございますが、防犯灯については年々四、五十灯ずつ市が防犯協力会に助成をして会員の方々の必要などところに設置しておるわけでございますが、やはり今はなかなか防犯については心をしていかなければならないときでございますので、本年もまた相談しまして、なるべく数多くできるようにいたしたいと考えておる次第でございます。

それから、河川の水質汚染防止対策ということでございますがこれはもと国及び県がやるべきところでございますが、国、県と協力してこの問題を検討するし、また現に館山市におきましては、御案内のように汐入川には滅菌装置をやるし、船形のどんどん川にも装置をするし、さらに楠見川にも装置をしてあるわけでございますが、おっしゃるかにた川のことは私見ていませんけれども、あそこは潮の水が入ってきたりなんかしていろいろあるようですが、よごれておることはたしかしいですが、現状を見まして、やはり滅菌装置をなるべくつけるように心がけていい水を海に流すと、こういうことが観光館山としてきわめて重要だろうと思ひますので、その点もやるように考えてまいりたいと思ひます。

以上、簡単ですが、御回答申し上げますが、あとはまた課長のほうから補足させていただきますので、よろしく。

一八番(安西益男君) 御質問に対しましては、四点の問題につきましましていへん前向きな御答弁がありましたのでございますが、

なおひとつ、二、三お聞かせ願いたいと思いますが、公共用地の取得については特別委員会を設置しようというようなお話してございまして、たいへん住民に対する立場から早速進めていただきたい。

そこで現在、たいへんこの問題につきましては、し尿処理場の広域圏でというお話し等もありますが、なお非常に心配している点は、ごみの不燃物の埋設といいますが、埋め立てのこれが非常に先まっ暗だということで関係の課としては非常に頭を悩ましておるといふ現状も、長田あるいは神戸等も問もなく満ばいという時期にも、早急に適地を探さなければ重大問題だというような処理場を拡大するまでの間、非常にこの点も大きな問題になってきますので、どうかそういった方面につきましても至急に対処していただきたいというふうに考えます。

二番目としまして、公域圏に対する、これは先ほど申し上げたように性格上からどうしても、現在館山市では赤字であるというような面ということじゃなく、広域的な性格である。あるいはまた協議会等開かれたと思いますが、そういった席上で業者等は、おそらくはできるだけそうしていただきたいというその後には、業者の代表等はそういった意向を持っております。

鴨川の件もございすけれども、鴨川の現状は御承知のようにと畜場の違反行為だということがはっきりしておりますので、この鴨川のと畜場の件につきましても一昨日ですか、鴨川市におきましても移管という問題を取り上げておるわけでございますが、やはりそういう方向に進んでいきたい。こういう市長の答弁もあったというふうに聞いております。どうか、そういった見地から

一日も早く促進の方向に向かって進めていただきたい。また、その見通しをどういうふうに考えておるかという点をひとつお聞かせ願いたいと思います。

三点目の防犯灯の件でございますが、これは新年度予算に対する今からひとつ要望しておきませんと、予算編成時に従来どおりの額では現状としては非常に住民の要望にこたえるのには、はるかに速いものがある。

昨今、非常に各市におきましても、暗やみにおける犯罪が非常にふえておる。そういった事故が起きてからでは間に合いませんので、やはり人命尊重という意味でも、あるいはまた交通面の交通事故の防止という面から、さらにはまた先ほどお話しありましたように観光館山の面からしても、当然大幅な増設ということとを本気に取り組んでいかなければならないのじゃないか。こういうふうに考えるわけでございますが、なおまた、総合計画の実施計画等にはある程度そういった予算というものが盛り込まれておるようでございます。この増設に対する見通しについてお聞かせ願いたいと思います。

なおまた、四点目の現状のかに九川でございますが、これは市内でも、もっともあそこ水質が汚染されておるんじゃないかというように感じておるわけでございますが、この汚染の状況等をどのように調査されて、そのデータ等がおわかりになりましたらお聞かせ願いたい。

それに対してどのように対処していくかという今、市長さんからも滅菌装置ということもお考えになるといふことでございますが、なおまた、あそこには養豚場等の非常にきいたない汚染したも

のが流れるということも被害のもとになっておりますので、こういった事業所に対してはどんなふうに対処されるのか。もう一遍お聞かせ願いたいと思います。

○衛生課長（館石勘治君）　かにた川の汚染状況でございますけれども、かにた川は豊津橋と、それからワールド産業のあの脇を流れておりますあの川と、もう一つ大賀の橋を流れておる川が一つおところにまとまっているわけでございますけれども、大賀橋の近辺の汚染状況が今数字がここにありますので、お話し申し上げます。

四十九年の四月二十五日現在の資料でございますが、その中にBODとSS、DO、大腸菌群というような項目がのっておりますのでございます。その中で、まず大腸菌群というのが非常に多く見受けられるのでございます。約七百九十万というような数字がのっておりますけれども、そのときの状況によって大腸菌群というのは移動しておりますので、たまたまこの日はこういうような状況であったかも知れません。その前の状況等も申し上げますと、まず四十八年の十一月七日同地区ではかたものが六十八万というふうな数字等もっておりますので、大腸菌群の状況というのは非常に変動が多いということが言えるわけでございますけれども、いずれにいたしましても大腸菌群が多いということは事実でございます。

したがしまして、この汚染源等で、かつてこの川につきましては県等とお話し合いをしまして、一事業所については浄化槽をつけましたという事例等もございますので、今後この川の問題につきましても、一部汚染源である事業所等もあったのでござい

すが、それらの指導につきましては、県とともに指導していきたいと、こう考えております。

○助役（畠山　伝君）　衛生課長の答弁に補足したいと思うわけでございますが、かにた川につきましても大腸菌群の多い小川の部類に入っておりますことは事実でございます。

しかしそこで、前に相当よごれておりましたので、ただいま衛生課長から申し上げましたように、ある事業所に対しては浄化槽をつくりまして、きのうも見てまいりましたが、非常に性能は今のところいいように見受けております。ちょうど上げ潮でございましたんですが、魚、イナが養殖場のようにあそこに上って相当上まで上っていくのを私は見たわけでございますけれども、そういうようなことでだんだんとあそこはよくしていくような形でいくわけでございますけれども、一部まだ家庭の雑排水あるいはまた先ほど申しましたように事業所等もございます。ですからこういうものも入らないように県とともに、県は水質汚濁法の防止法でやっておりますので、県とともに努力してまいりたいと思いますが、夏場におきましては滅菌装置等も考えて、できるだけ浄化に今後とも努力してまいりたい。かように考えております。

○交通防犯課長（山口　一君）　防犯灯の関係につきましてお答え申し上げます。

防犯灯につきましては、いわゆる犯罪の予防と申しましょるか事故防止のため重要なものといまして、市のほうといたしましては積極的にこの設置をはかっておるわけでございます。現在まで市の助成等によりまして設置いたしました防犯灯は二百六十六灯になっております。本年度も三十灯程度設置する予定になっ

ております。その後の社会情勢等の変化によりまして、今後さらに防犯灯を設置する必要が当然生じてくるわけでございますが、実は、防犯協力会におきまして、市内全域の防犯灯の必要個所の調査を実施中でございます。市といたしましては、この調査の完了を見ましてから、一応防犯灯の設置必要数を把握いたしました。将来の設置計画、それを策定いたしましたして、早期の増設というものを軌道にのせていきたい。このように考えております。

〇 一八番（安西益男君） と場の広域圏への移管については積極的に取り組んでいただきたい。これは前にも申し上げましたように、鴨川でもそういう意向であります。また、環境からいっても、性格から当然そういう方向でございますので、この点ひとつよろしく願います。

かにた川の事業所、早速この前やっていただいたわけでございますが、この機会でありますので、その点も十分御指導願いたい。それと、あそこに非常にヘドロといいますが、そういった非常にきつい状態がありますが、そういったこともたいへん大仕事だと思いますが、可能な限りこういった方向につきましても、やはりその個所は海水浴場がすぐそばにございますので、非常に海水浴もふえていくという現況から、どうかそういった面には十分御配慮いただきまして進めていただきたいと思ひます。

それから、滅菌装置等、来年の夏までには、というよりなるべく早くお願いしたいと思ひます。

以上、全般にわたりますして、たいへん取り組んでいこうというような非常に前向きな御答弁でございますので、これをもって終らせていただきます。

〇 議長（吉田勇治郎君） 以上で、通告者による一般質問を終わります。

散

会 午後四時二十八分散会

〇 議長（吉田勇治郎君） 本日の会議はこれにて散会といたします。次会は九月二十日午前十時開会といたします。その議事は各議案の内容審議といたします。

〇 本日の会議に付した事件
一、行政一般通告質問

